

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会調査の基礎	3	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○社会福祉士国家試験の受験科目であるため多くの学生が参加していた。ただし意欲の点からすると苦手な数学のイメージから、及び腰の学生も多く見られた。統計的技法の習得に十分な数学的技能を備えていない者も多く、「統計の意味を理解する」ことに重点を置いた。数学Ⅰにおけるデータの分析の学習状況は高校によって差が大きいと考えられる。 ○統計の授業のオリエンテーションにおいても、計算が苦手でも必ず社会調査を理解することができるという授業のコンセプトを説明し、学生の動機付けに配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された			達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○平均87.0点。秀3名（50.0%）、優1名（16.7%）、良2名（33.3%）。SD9.4。 参考：前年度平均77.0点、秀20.3%、優20.3%、良27.0%、可25.7%、不可6.8%。 ○今年度は再履修者のみのため一概に比較できないが、全員不可から平均点87.0まで上昇したことは高く評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○授業方法としては(1)社会調査のイメージ作り(2)意義の理解(3)統計的手法の理解と活用といった順番で進めた。 ○(1)(2)については国家試験の過去問と照らしても学生も理解しやすいが、(3)から突然難易度が上がると感じる者も多かったようだ。テキストだけでなく、レジュメやスライド資料を活用しながら、できるだけ「なぜその統計手法が必要なのか」が理解しやすい授業を心がけた。授業中にはある程度理解できても、その定着が困難な場合もあり、繰り返し学習もこれまで以上に取り入れる必要がある。 ○ここまでは例年と同様の授業方針であるが、再履修ということもあり、基本理解の確認から出発し全体像をイメージさせる学習がスムーズであった。 ○前年度と比較して配布プリントを解きなおした上でなお理解できない点を質問する学生が一定数いた。その質問内容については授業で少しだけだが触れるようにして、4年次の自己学習とのつながりを持てるよう心がけた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○全員基本的事項は理解できており、そのことが授業中の繰り返し学習（事例や説明の角度を変えながら同じポイントの理解を深める）を可能にした。 ○難易度の高い項目（統計的検定の手続き、種類と特徴など）については時間的余裕を生かして資料を増やすなどの方法で対応できる部分が増えた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○基礎的理解、応用的な知識など全体として満足できる結果となった。再履修者という出発点から成果が上げられた原因としては、少人数学習による集中が考えられる。また、繰り返して知識の定着や理解を図ることの重要性を改めて認識させられる授業であった。 ○次年度は全く新しい集団を対象とする授業となるが、今回の知見を生かし、繰り返し学習の割合を増やすと同時に学生の理解を見ながら学習内容の選択などを柔軟に行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会福祉特講Ⅱ	4	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉の制度・政策の最新動向を教授するとともに、国家試験対策としての位置づけにある。教員5名のオムニバス形式によるものである。講義では、「現代社会と福祉」および「高齢者福祉に対する支援と介護保険制度」（いずれも国家試験科目）を担当し、特に法制度の改正部分や国家試験で出題が予想される内容、また学生の理解度が低いと思われる内容について解説した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価を見ると、「自分なりの目標を達成した」（少しそうでないと思う25.0%、まあまあ思う50.0%、かなりそうだと思う25.0%）であった。また、DP1として、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（まあまあ思う25.0%、かなりそうだと思う75.0%）が見られた。総じて、本科目の教育目標は達成できたと考え。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 学生の到達度自己評価結果から本科目の教育目標は達成されており、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 上記で述べたように、本科目は国家試験対策の意味合いも兼ねた内容となっているものの、夏休み開講ということもあり、受講生数は少ない状況となっている（実習で履修できない学生が多い）。CP・カリキュラムマップ上の位置づけという点では検討が必要であると思われる。 ※本科目は本年度で廃止となった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は教員5名によるオムニバス形式をとっている。各担当の授業進行自体は、特に問題はないと考えるが、準備学習の提示の有無、内容・方法等について、教員間でばらつきが見られた。この点について、担当教員間で開講前に協議するなどの対策が必要と思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標は達成されたものの、開講時期や準備学習の提示などに課題があると考ええる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅲ	4	通年	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体のWebでの研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、精神保健福祉士の過去の国家試験問題等を利用したリしての解説等を行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。 なお、今年度に関しては全てweb講義での対応となり、学生の反応を直接確認することはできなかったが、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の試験対策にとっても役に立ったや、幅広く福祉全般の関連分野まで理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものが感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目が他の項目より平均点が低かった。Webでもあり、座学であるがゆえ、なかなか困難かとは思いますが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討を行い、引き続き次年度以降の課題としたい。学術データベースの利用に関しても残念ながら殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも引き続き検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、引き続き具体的に指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。今までの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、4年後期の開講科目という点から、前半部分は今までの復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は両福祉士の国家試験が近付くということも考慮して、その試験に関することに関係性を持たせて講義を行った。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、Webではあったがロールプレイを取り入れ実際に演じてみるという演習を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めた。次年度は予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。Webが中心ではあったが、対面と同等の効果があったと感じられた。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は、精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるため、必修であると回答した学生が多いと考えられる。また、学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。 ②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、実習指導の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。 ③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。 なお、今年度に関しては全てweb講義での対応となり、学生の反応を直接確認することはできなかったが、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の資格取得に課せられた精神保健福祉援助実習Ⅱ（地域実習）の事前事後指導の科目である。3年次の医療機関実習での学びを通して4年次の実習に向けた各自の目標設定や課題の確認等を行いながらWebではあるが、地域実習に臨むことができている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	精神保健福祉援助実習Ⅱに向けた、事前事後指導という位置づけである。精神保健福祉コースの総括としての実習Ⅱを通して学んだことを、事後指導の時間を多く設けて個別体験から総合的包括的な理解へと広がるための科目設定である。内容的には妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、及び質問の受付けられる機会の提供の項目についても高得点であった。Webではあったが、できるだけ主体的参加によるグループワークが展開できるような演習形式を意識して行っていたための評価であると考えている。実習事前事後指導については、Webでの実習ではあったが、よりリアルな状況を説明していきながら、各自の実習目的を明確化することを進めていった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士を目指す学生が受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。実習に向けての職業倫理や行動規範などにより時間をかけるとともに、授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができたと思われる。次回も引き続き、この点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。Webでの講義が中心であったが、体面と同等の効果があつたと感じられる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神障害者地域生活支援論	4	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目ではないが、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体のWebでの研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、精神保健福祉士の過去の国家試験問題等を利用したりしての解説等を行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。 なお、今年度に関しては殆どがWeb講義での対応となり、学生の反応を直接確認することはできなかったが、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、最終レポート、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の試験対策にとっても役に立ったや、幅広く地域での福祉全般の関連分野まで理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、両福祉士の国家資格を取得するための専門科目ではないのにも関わらず、その関連性の高さから、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものが感じられた。また、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目が他の項目より平均点が低かった。Webでの座学であるがゆえ、なかなか困難かと思うが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討を行い、引き続き次年度以降の課題としたい。学術データベースの利用に関しても残念ながら殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも引き続き検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、引き続き具体的に指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士の国家試験受験資格の科目ではないが、その関連性が強く、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。今までの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、4年後期の開講科目という点から、前半部分は今までの復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は両福祉士の国家試験が近付くということも考慮して、その試験に関することに関係性を持たせて講義を行った。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、多くの事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めることができたと感じられる。次年度は予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。Webでの講義が中心であったが、対面と同等の効果があったと感じられる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
コミュニティ心理学	4	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「資格に必要である」40.0%、「関心のある内容である」40.0%、「単位数を確保する」40.0%であった。選択科目であり、認定心理士資格取得希望者には必要な科目であるが、それ以外の学生はそれぞれの自主的な判断により選択、受講されている科目と考えられる。 本科目は、臨床心理学の実践から生まれた応用領域の学問を学ぶものである。このコミュニティ心理学の基本概念や実践報告には、臨床心理学や社会福祉学と重なる点や異なる点が数多くみられる。そこでこれまで福祉学科で培った各学問との関係、各対人援助領域での応用のあり方について、文献を読み解きながら、受講者全員による質疑、議論を重ねることで、本科目の知識を吸収していくことを促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点であった。75%の受講者は80点以上であり、ほとんどの受講者は理想的レベル、一部受講者は標準的レベルの知識理解が進んだと考えられる。 学生の自己評価においては、平均値3.4の項目は「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」であった。その他項目は3.0～3.2であり、到達度自己評価として「まあそうだと思う」と答えた学生が最も多かった。2020年度は、遠隔授業であったため、自宅学習という環境の中で、よく資料を読み学習に取り組んでいたと教員は評価しているが、学生の立場では、学生相互の質疑応答を行う機会が減り、教員や課題と向き合うばかりでは、自己評価を高く持つことが難しい状況があったのではないかと考えられる。 授業の質の評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均点が3.8、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」の平均点は3.6であり、遠隔授業の中でも取り組むべき課題については十分に伝わっていたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、臨床心理学の応用領域ということから考えると、これまで3年半の間に獲得した心理学と社会福祉学の各領域の知識を生かし、さらに専門性を高め、実践に結び付けることを志向し議論することは、4年後期の時期に適切であると考えられる。 到達度自己評価は「自分なりの目標を達成した」の平均点は3.4点であり大半の学生が自らの目標を達成し、成長を実感することができたと推察できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生に参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受けつけ、それに答える機会が作られていた」の平均値が2.8であり、1名が「少しそうでないと思う」と答えていた。これは、本年度の授業のおよそ3分の2の期間が対面授業から遠隔授業と変更されたためと考えられる。遠隔授業においても、学生の提出レポートへの返答を行うなど、教員と学生の質疑応答ができる機会を設けたが、学生同士の議論などを十分に行う機会を確保することは難しかった。自分の意見をまとめる機会は数多く作っていたが、十分に周知できなかった可能性や、対面でないことにより学生の小さな疑問、戸惑いを教員が拾うことができなかった可能性がある。 学生の自由記述には、授業の課題以外に取り組んでいない理由として、「難しい」「授業の課題で十分だと感じた」という意見があった。コミュニティ心理学は、基礎心理学、臨床心理学の応用分野であり、認定心理士資格取得のため心理系科目の学びを積み上げてきた学生と比べ、そうでない学生にとっては4年生であっても内容の理解に難しさがあった可能性がある。互いの理解を確認し合い、学生同士の学び合いの場となるような演習形式、対面授業での実施が必要であると考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成および関心意欲の向上について、概ね達成できた。コミュニティ心理学は2020年度までで廃止の科目である。認定心理士資格取得のため、一定の役割を果たすことができたと考え。 先に述べたように、コミュニティ心理学は、基礎心理学、臨床心理学の応用分野であり、認定心理士資格取得のため心理系科目の学びを積み上げてきた学生でなければ、4年生であっても内容の理解に難しさがあった。今後は、まずは基礎的な心理学・臨床心理学の知識に習熟するよう、学生に他の心理系科目の履修を促していく。また、基礎的な心理学・臨床心理学の知識に習熟した学生には、「発達臨床心理学演習」などの4年次演習科目の中で、コミュニティ心理学の実践事例研究も紹介するなどして、この領域に関わる学びの機会を補償していくこととする。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 総論(2017年度入学生)	4	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 本年度は、遠隔授業形態の中で、演習自体に制約があったが、その中で実施可能なように準備をすすめた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価から全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」からも、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。一方で、制約がある中での演習であったため、例年に比べると保育現場に行って実施することも叶わず、「やや達成された」が妥当であると考ええる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、保育内容におけるまとめとなる科目のため、関連DPについては妥当であるとする。また、保育内容の各論を踏まえ実習後に総合的に保育内容について理解する科目として位置付けていることから、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎年、課題量が負担になるという意見が多いが、本年度は遠隔授業ということもあり、そのようなコメントはなかった。成績評価からは、一定の成果があったと考えられるが、例年に比べるともう少し具体的な内容に踏み込めればという懸念は残る。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	このような状況下においては、概ね教育目標は達成できているとする。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育相談支援	4	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	開講時期が四年次ということもあり、一定の相談援助の技術・知識は持っているものと考えられた。しかし、過去3年間の授業を通して、学生が事例を味わい、より深く対象を理解する・様々な可能性を探るといった経験は少ないものと思われた。近年、本邦は少子高齢化の社会の中で核家族化や都市化の進行、女性の社会進出が増加し、保育のニーズも多様化するようになってきた。また地域や家庭の子育て機能が低下し、子育てをする保護者の孤立感・育児不安が増大して来ているとも言われ、それらの対応に保育所の保育士が携わる事が期待されるようになった。そこで本演習では、様々な相談援助の専門家の中でも「保育士の専門性を活かした支援の方法」について、学びを深められるよう授業を展開し、グループ活動・ディスカッションを行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は79.43(±7.23)であり、昨年度(77.83(±6.53))よりやや上昇がみられた。4年生後期の科目であり、職業選択の参考にするための科目と言うよりは、これまで学んだ知識・技術に加えて新たな視点を提供するための科目であるにとらえていたため、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」という項目の評価が4.0であったことは評価に値すると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「保育関係科目」に位置しており、学科のCPとも合致した授業内容となっている。学生は本科目を「必修科目である」63.6%、「資格取得に必要である」90.9%と評価していた。学生のコメントに「事例を通して子ども、保護者への配慮の難しさや多様な視点を持つことの大切さを学んだ」、「親切かつ丁寧で分かりやすかった」などがみられたため、内容的にも方法論的にも妥当なものであったと評価している。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	グループディスカッション等積極的に取り入れていく予定だったため、急遽オンラインになり、変更を余儀なくされた点は残念であった。ただ、それぞれ行った課題を踏まえて全体に発表する、小グループに分かれて話し合ったことをグループでまとめて発表するなど、できる限り対面に近い状況を設定した。学生の自由記述の意見は既述の通りであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	演習授業で、グループディスカッションに比重を置いた授業である中、オンライン授業という制約はあったが、学生の到達度、成績の平均値及び標準偏差、授業の質評価等より、一定程度の授業を展開できたと考えている。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うというよりは、必然的に受講している科目である。 学生の受講動機に関わらず、保育実習に行くための準備科目であるため、社会人としての基礎的なマナーから実習に必要な書類作成、実習の心がけ、基本的な保育技術について教授する準備を整えた。また、2度目の保育所実習ということで、1回目の実習を踏まえて、各個人について必要な保育技術についても事前に聞き取りを行い準備した。しかし、コロナ禍において現場実習が直前で困難となり、遠隔での実施となったことで、その点は準備が十分ではなかったと考えている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「到達度自己評価」において全受講生が目標を達したと回答しており、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。一方で、最後の実習が遠隔による学外実習であったため、保育技術の獲得や現場での即時的な反応等の獲得は困難であると考えため、「やや達成された」と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学内の学びを総合的に実践の場で学ぶ機会であるため、上級学年での開講の必要がある。その点を踏まえて、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習に行くために必要な知識・技術を身に着けるための科目であるため、必要な教授内容を系統的に配置し、進行した。特に2回目の保育所実習であることから、高い保育技術を教授できるよう、全受講学生のニーズに個別に合わせ2名の教員で授業時間外にも個別に対応した。遠隔実習になったが、可能な限り実際の保育場面の映像を準備し、保育士の先生にも毎日質疑をいただいた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	遠隔実習であった点を考慮すれば概ね教育目標は達成できていると考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実践演習	4	通年	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、履修者全員資格取得を目指している。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記を踏まえ、保育士として勤務するに当たり必要となる実践的な知識・技術を演習形式でロールプレイを通して経験し、身に付けることが出来るよう、多様な演習内容を準備した。しかし、遠隔授業では実施が困難なものも多く、演習そのものよりも準備に焦点を当てた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価において全ての学生が達成されたと答えているが、運動会や宿泊演習等、演習そのものは実施が困難であり、完全に達成できたかというとは十分ではないと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、4年間のまとめとなる科目のため、関連DPについては妥当であるとする。また、4年間の学習後に総合的に保育実践力を身に付ける科目として位置付けていることから、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業への取り組み、授業内のディスカッションの内容、各演習の実施、振り返り、成績評価を踏まえて、遠隔授業の形態では限界があったのは事実であるが、その中では概ね問題なく進めたとする。 各演習課題の準備について準備時間が不足するという学生の意見については、遠隔授業の中での個人作業に対して継続的に課題に取り組むよう促し、適宜サポートする必要があると考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できているとする。授業進行については、継続的な課題への取り組みの促しとサポートが必要であるとする。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業では、専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに、学生自身がさらに興味関心をもったテーマを決定させ、それについて調べ、まとめさせた。 学生各自がテーマに沿って調べてきた内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77.0（±6.3）点であった。成績分布別にみると、89～80点50%、79～70点が33%、69～60点が17%であり、全員が標準的レベルに達しており、50%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「わりにそうだと思う」が67%、「まあまあそうだと思う」が33%であり、全員が肯定的に捉えていた（平均値3.7）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）については、「かなりそうだと思う」が33%、「わりにそう思う」が67%で、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.3）。 「思考・判断（DP2）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目4と5）についても、「かなりそうだと思う」が33%、「わりにそう思う」が33～67%、「まあまあそうだと思う」が33%であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0～4.3）。 「意欲・関心（DP3）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目6）についても、「かなりそうだと思う」が33%、「わりにそう思う」が33～67%、「まあまあそうだと思う」が33%であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0）。 その他、「技能・表現（DP5）」（質問項目7と8）、「態度（DP4）」（質問項目9）に関する学生の到達度自己評価についても、それぞれの平均値は3.7であり、すべての学生が肯定的に捉えていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の「専門研究科目」に含まれる科目である。この授業では、専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに学生各自が設定したテーマに沿って調べ、その内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。 すべてのDPおよび「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、すべての学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価では、平均値が4.0～4.7であり、授業の進め方は良かったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生は、6回が33%、4～5回33%、0回が33%であった。また、1回30分程度以上の復習を行った学生の割合は、6回が33%、4～5回33%、1回が33%であった。。授業課題以外の学習に取り組んでいる学生はいなかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生による授業の質評価では、平均値が4.0～4.7であり、授業の進め方は良かったと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」が100%である、3年次の専門研究Ⅰから継続し、学生自らが研究領域、テーマを決め主体的、積極的に研究の成果を各自がまとめる取り組みをした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	ゼミ生の半数の回答であったが、「目標を達成した」「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た」に高い自己評価を回答していることは意味深い。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」にもあるように「自分なりの目標を達した」とする学生がほとんどであったことは評価できる。今後も学生の主体性に任せることにしたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	卒業研究を各自のテーマで取り組ませ、図書館、インターネットなどを活用していたことが回答でわかる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	卒業研究のテーマは多彩であった。専門職に就いた者、行政職に就いた者、養護教諭に採用となった者、一般に就職した者といたが、それぞれが自らの取り組みで将来の方向性へと進んだことは学生の努力の成果だと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	3年次からの引き続きで、社会福祉専門職を目指す学生、特段メンタルヘルス分野（精神保健福祉領域）に興味を持つ学生を対象としたゼミである。可能な限りリアリティを重視し、現場実践学を学ぶ機会の提供を行うことに重点を置いた。ゼミで、司法施設や福祉施設のWebでの見学を積極的に行ったり、社会福祉士会や精神保健福祉士協会のWeb研修会にも積極的に参加した。3年次に設定した、自分の卒業研究の課題を「ゼミ論」としてまとめさせ、それに伴う文献研究や実践現場でのインタビューや調査等の指導を行った。なお、今年度に関しては殆どがweb講義での対応となり、学生の反応を直接確認することはできなかったが、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、理想的レベルには達成した。また、ゼミ論、参加意欲、態度、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全学生が80点以上であり、理想的レベルに達している。ゼミ論、レポート等の内容から、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性については、卒業するための必須科目であり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味がある学生が選択しているということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、理想的な到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前年度は、ゼミ論をまとめるために、学術データベースが、あまり利用がなされてない状況であったので、今年度はその活用方法を教授した。次年度も、利用の仕方からのインフォメーションを行うことを引き続き行いたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。就職活動や国家試験対策で時間を取ることが多くなるということも考慮して、時間の作り方に関しても、引き続き指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	メンタルヘルスについて興味関心がある学生が多いということで、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。これまでの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授した。卒業研究のゼミ論完成に向けて、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、よりリアリティを習得できるように、Webではあったが実践現場の見学を行って、現状と課題を追求できるように指導できた。最終的には、全ゼミ生の就職が決定し、国家試験も良い結果を残せた。Webが中心であったが、対面と同等の効果があったと感じられる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	福祉学科4年間の集大成として本科目を位置づけ、指導を行った。具体的には、各人にこれまでの学習の振り返り、今後の進路等について考えさせ、それらを踏まえた上でレポートを作成させ、指導した。指導の際は、各人とのコミュニケーションを十分に図り、学習意欲や主体性が高まるよう努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について学生の授業評価アンケートにおける到達度自己評価から見てみると、「知識理解」（DP1）は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそう思う66.6%、かなりそうだと思う0%）であり、目標をある程度達成できたと考ええる。「思考判断」（DP2）は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う66.6%、かなりそうだと思う0%）となっており、目標をある程度達成できたと言える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う66.6%、かなりそうだと思う0%）であり、これも目標をある程度達成できたと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う100%、かなりそうだと思う0%）となっており、目標を達成できたと考ええる。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う66.6%、かなりそうだと思う0%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う66.6%、かなりそうだと思う33.3%）であり、目標達成をある程度達成できたと言える。 回答者数（母数）は3名と少ないものの、各DP項目の評価からは、本科目における教育目標の達成は、ある程度達成されたと考ええる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、教育目標をある程度達成しており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は、福祉学科4年間における学習成果の集大成として各自が研究テーマに取り組むものであり、CPおよびカリキュラムマップ上の問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートでの学生の学習量では、「授業の課題以外の学習への取り組み」は「取り組んでいない」（66.6%）となっている。本年度は遠隔による指導であったが、学生の主体的な学習態度を引き出す指導を工夫する必要があると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	既述の通り、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から、本科目の教育目標達成は、ある程度達成されたと言える。しかし、学習量の確保や主体的・自発的な学習態度の涵養といった点では十分な成果が見られなかった。今後の課題としたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機としては、「必須科目である」60.0%、「資格取得に必要な科目である」60.0%という結果であった。 専門研究Ⅱでは専門研究Ⅰで取り組んだテーマをもとに個人で発表を行い、テーマについてグループワークを行った。さらに、そのテーマについて探索的に研究し、養護教諭としての専門性を高めるように講義内容を工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は80.0点であった。 授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.2 中央値4.0）、また思考・判断、自分が学ぼうとしている専門分野において様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.0、中央値4.0）、また、意欲・関心においては、自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.2、中央値4.0）と答えていた。さらに職業選択の参考になった（平均値4.0、中央値4.0）と答えていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.2 中央値54.0）、また意欲・関心、自分が学ぼうとしている専門分野において学びを深めたいと意欲を持つことができ（平均値4.0 中央値4.0）、また、職業選択の参考になった（平均値4.0 中央値4.0）と答えていた。 学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の学習量の評価について、「4月から養護教諭とし働くために知識を身につけるための学習を行った。」、「動画や資料を調べた。」などの意見があった。また、図書館も積極的に活用していた。 本科目を通して養護教諭として専門性を深めていけるよう、グループ討議などを取り入れ授業構造を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目を通して養護教諭としての専門性を深め、学校現場において活躍できるような実践力を身につけることができるように授業構造を改善していきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
西洋の音楽と文化	4	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目の履修学生は全員四年生であり、キリスト教の知識および理解が多少備わっていることを前提として授業の解説を試みた。昨年度まで、授業の導入として讃美歌を全員で歌っていたが、遠隔授業では讃美歌の作詞者及び作曲者について解説を行い、讃美歌成立の理解を深めた。全体を通して西洋の音楽と文化を学び、日本の西洋音楽移入について解説することで音楽文化についてグローバルな視点から文化に對して考えが深められるよう授業計画を立てた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績は履修生の半数が理想的レベルに達した（理想的レベルは80点以上に設定）。学生による授業評価アンケートにおいて、到達度自己評価の自分なりの目標を達したの平均値は3.0であった。その他の項目も3.0であった。毎回授業後に感想を提出させており、授業前半（対面）は全員提出していたが、後半（遠隔）になると半数のみ提出するようになり、授業への積極性が薄れてきたと考えられる。数人の学生は、授業内容から興味をもったことについて、自主的にインターネットを使って調べたなどの報告があった。全員に積極性を求めることは難しいが、キリスト教音楽の成立及び日本への西洋音楽の移入について知識を得て、疑問を持ち、それについて調べたりすることが出来るよう、課題の出し方に工夫が必要であると考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、キリスト教音楽の歴史を通して、音楽文化について考える授業である。医療及び福祉の現場においても音楽は不可欠となりつつある。DP,CP,カリキュラムマップの位置付けから、本科目は、学科横断的であり、異文化に興味関心を持つ学生がキリスト教音楽の基礎知識を獲得し、音楽文化を多角的及び総合的に学べるよう工夫しているため、内容的には妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学期途中から遠隔授業に切り替わり、授業の進行は解説が主であった。解説後に自分で楽曲を鑑賞し感想を提出することを課題としたが、遠隔であったため楽曲を最後まで聴いたという確認ができなかった。これについては、対面授業では解消できると考える。授業の質評価は全ての項目において中央値が3.0であり、学生によって認識が異なっていた。遠隔により学生の状況を十分に把握できなかったことが原因と考えられるため、参考にしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は今年度で終了する。これまで西洋の音楽をキリスト教音楽の成立を中心に歴史を概観し、時代ごとの音楽の特徴と背景を踏まえながら解説した。できる限り音楽を鑑賞することを取り入れ、工夫をしてきた。人の社会に音楽は欠かせないうえ、医療及び福祉の現場において音楽が療法的に用いられる中で、日本の音楽文化成立の一つの要素となった西洋音楽についての知識及び理解は欠かせない。授業を通して多くの学生と音楽文化について共有できたことは、大変貴重な時間であった。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては「資格取得に必要である」91.3%、「必須科目である」56.5%、「関心のある内容である」13.0%であった。資格取得や必須科目であるが、関心が低い科目であることがわかる。 これらのことから、授業のオリエンテーションを丁寧に行い授業への関心が高まるように工夫をした。また講義を通して基礎的な知識が定着できるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。 ②授業では、保健教育の授業の基礎（学習指導要領における保健教育の位置づけ、指導案の作成方法など）を講義と演習を通して行った。さらに、学生が題材を決定し学んだことをもとに模擬授業の指導案を作成し、10分間の保健指導を行った。模擬授業をおこなうだけでなく、自己評価、他者評価を行い授業への関心意欲を高め、また授業の質が向上するように工夫した。オンラインの授業においても可能な限り教材を作成し、効果的な保健指導ができるように授業内容を工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は80.1点（±7.5）であった。理想的レベル（80点以上）は10名であった。 目標別の達成度は知識・理解に関しては、75.0%、思考・判断76.0%、意欲・関心80.6%、技能・表現94.0%であった。知識・理解では、基礎的な問題の正答率は高かったが、基礎的な知識を応用した論述問題の正答率が低かった。このことは、基礎的な知識の定着とそれを応用しての理解が不十分であったと考えられる。授業では基礎的な問題の定着を確認しつつ、復習問題を課題に出すなどの工夫を通して、応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.1、中央値4.0）、また、自分が学ぼうとしている専門分野において学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.1、中央値4.0）、であった。また、職業選択の参考になった（平均値4.2 中央値4.0）であった。 さらに、学生が行った模擬授業において、指導案、教材等の作成の方法などを具体的に示し、達成感を得ることのできる授業内容の工夫を行っていききたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「保健・医療関係科目」であり、養護教諭一種免許状取を取得するための看護臨床実習、養護実習の履修要件科目である。受講動機としては受講動機としては「資格取得に必要である」91.3%、「必須科目である」56.5%、「関心のある内容である」13.0%であった。 また、学生の授業評価においては、知識・理解において知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.1、中央値4.0）と答えている。また、思考・判断において自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた(平均値4.2、中央値4.0)と答えている。 学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容的妥当性 成績評価から見て知識・理解に関する達成度が比較的低かったが、基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。また学生の授業以外に取り組んだこととして、「小学校での学習指導を行って学校の仕組み
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価においては、「講義の進捗状況が明確で、養護教諭の役割や考え方の基本となる指針を学習指導要領、教科書等の説明を踏まえて模擬授業を実践できたこと、振り返りができたことは積み重ねの力になると感じました。」「自分の参考書などでわからないことは調べた。」という意見があった。授業では、講義でしっかりと基礎知識を身につけ、グループワークなどを取り入れ、学校現場で授業を実践できるような力を身につけることができるように授業を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、学校現場では保健教育の中心となり活躍することが求められる。基礎的な知識を定着させ、学んだ知識をさらに活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。さらに、教材開発の方法などを取り入れ、学生が保健の授業の楽しさを味わうことができ、達成感を持つことができるような授業内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3～4	三期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は教職課程における、養護教諭になるための学習として位置づけられている。また、受講動機としては「資格取得に必要である」100.0%、「必須科目である」38.9%、「関心のある内容である」5.6%であった。資格取得を取得するための科目であるが、関心が低い科目であることがわかる。 これらのことから、養護実習に向けての準備や実習後のカンファレンスを通して、自分が目指す養護教諭像や学校現場での実践についてより具体的にイメージできるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。さらに学生が養護実習で経験する職務内容について、学校現場で実践できるように具体的な事例を示し、わかりやすく解説することを心がけた。オンラインの授業においては、classroomに事前に資料を掲載し、予習・復習に役立つようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は80.0点であった。理想的レベル（80点以上）は19名であった。 目標別の達成度は知識・理解に関しては96.0%、思考・判断80.0%、意欲・関心82.0%、技能表現97.0%であった。授業では基礎的な問題の定着を確認しつつ、復習問題を課題に出すなどの工夫を通して、応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.0 中央値4.0）、また意欲・関心においては、自分が学ぼうとしている専門分野において様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値3.9、中央値4.0）であった。さらに、職業選択の参考になった（平均値3.9 中央値4.0）であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「教職課程科目」であり、養護教諭になるための学習として位置付けられている。 受講動機としては受講動機としては「資格取得に必要である」100.0%、「必須科目である」38.9%、「関心のある内容である」0.0%であった。 また、学生の授業評価においては、思考・判断において知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.0 中央値4.0）と答えている。また、関心・意欲においては自分が学ぼうとしている専門分野について、さまざまな課題を検討する力を得ることができた（平均値3.9、中央値4.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て知識理解に関する達成度をさらに定着させるために、基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の学習量の評価においては、「実習や試験勉強もあったので復習もかねて勉強に力を入れた。」、「インターネットの記事などを参考に問題解決法を考えた。」などの意見があり、熱心に授業に取り組んでいた。講義でしっかりと基礎知識を身につけ、グループワークなどを取り入れ、学校現場で臨機応変に活躍できるような実践的な力を身につけることができるように授業を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、学校現場では、医学的知識を身につけた専門職としての活躍が期待されている。養護実習で経験する救急処置について、実践事例を通して、学んだ知識をさらに活用できるような実践力が身につくように授業内容を工夫していきたい。また、オンラインの授業においてもclassroomの機能を活用し、積極的に演習ができるような授業内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（養護教諭）	4	後期	選択	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は教職課程における、養護教諭になるための学習として位置づけられ、さらに教職実践の進化を図るための科目として位置づけられている。 受講動機としては「資格取得に必要である」100.0%、「必須科目である」35.0%、「関心のある内容である」0.0%であった。このことから、資格取得や必須科目であるが、関心が低い科目であることがわかる。 本科目では、養護実習を通して学んだことを通して、自分が目指す養護教諭像や学校現場での実践についてより具体的にイメージできるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。さらに学校現場においてより実践力を身につけることができるように、保健教育における「性に関する指導」、「養護教諭と多職種連携について」の講義内容を設け、養護教諭の職務内容と専門性について理解が深まるように授業内容を工夫した。また、オンラインの授業においてもグループワーク等を取り入れ積極的に意見交換ができるように工夫をした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は86.0点（±7.1）であった。理想的レベル（90点以上）は7名であった。 目標別の達成度は知識・理解に関しては、82.0%、思考・判断85.0%、関心・意欲82.0%、技能・表現92.0%であった。 授業では、養護実習の実践を通して個人で振り返り、個人の課題を把握しグループワークを通して課題に取り組み、学校現場での実践に生かすことができるように授業内容を工夫した。また、学校現場において対応を求められている現代的な課題に対応できるように、「養護教諭と多職種連携について」事例を通した授業展開を行った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.0 中央値4.0）、また意欲・関心においては、自分が学ぼうとしている専門分野において学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値3.9、中央値4.0）、職業選択の参考になった（平均値4.0 中央値4.0）であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「教職課程科目」であり、養護教諭になるための学習、教職実践の深化を図る科目として位置づけられている。 受講動機としては受講動機としては「資格取得に必要である」100.0%、「必須科目である」35.0%、「関心のある内容である」0.0%であった。 また、学生の授業評価においては、思考・判断において知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.0 中央値4.0）、意欲・関心においては自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた（平均値3.9 中央値4.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容の妥当性 教職課程の深化を図るための科目として位置付けられ、授業において養護実習の経験を通して、学校現場で実践できる力を養成するために、講義と演習のバランスを考慮した。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価として授業の課題以外に取り組んだこととして、「文献を読み事例を把握した。」、「実習のために学校法規などの学習をした。」、「試験勉強。」など採用試験の勉強や授業に熱心に取り組んでいた。今後もオンラインでの授業が想定される。学校現場で臨機応変に活躍し、実践できるような力を身につけることができるようにclassroomの機能を活用し、グループワークなどを積極的に取り入れ、授業を行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、教職実践の深化を図る科目である。養護教諭は学校において、医学的知識を身につけた専門職としての活躍が期待されている。子どもたちを取り巻く環境は複雑化しており、養護教諭は多職種と連携し課題を解決できるような実践力が求められている。昨年度から取り入れた「養護教諭と多職種連携」についての講義を通し、課題解決に向けて学んだ知識をさらに活用し、実践力が身につくように授業内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	原田 義也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期に続いて、新型コロナウイルス感染症の不安と戸惑いの中での後期でした。教室での対面授業で始まったことは嬉しい後期でしたが、再び遠隔授業となり、その操作での不安と戸惑いが加まりました。聖書に身近なものとして親しむことを目標とした授業でしたが、不安と戸惑いの中にある学生の皆さんには、聖書に親しむことで、聖書についての知識よりも、聖書が語る慰めや希望を知ってもらえることを意識しました。再度、遠隔になったこともあり、ささやかでも、つながりを感じることができればと、課題に対する応答には、短いながらもコメントすることを心掛けました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	遠隔授業が多くなりましたので、課題に対する応答があることを評価の基本としましたが、その内容には差が大きくあったように思います。課題に積極的に向かい合い、丁寧に応答して下さる学生、そこには、借り物ではない自分自身の言葉がありました。他方、そうではない、文字数としても少ない応答がありました。とは言え、基本的には、課題に対する応答があること、つながりがあることを重視しました。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	キリスト教学という科目ですが、学とか授業ということとは異なる重要性をもっていると感じた一年でした。課題に対する応答には、新型コロナウイルス感染症によって、制限された生活における不安の吐露もありました。そのことによって、知識としてではなく、慰め、希望の言葉として、聖書に出会ってほしいとより感じましたが、これはこの一年のことではなく、西南女学院にとって、なくてはならない時間として、大切にされる科目であることを思います。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教室での対面授業においては、視聴覚教材のようなものを用いることができ、学生の皆さんにも喜んでもらえましたが、遠隔授業の制限の中では用意したものを十分に用いることができませんでした。当たり前にしたことが、当たり前でなかったことも感じました。残念で申し訳なく思う所ですが、遠隔における課題への応答、そのやりとりは、遠隔ならではの良さであったかもしれません。ここでも、迷いつつ、戸惑いつつでした。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	教室では、特に意識しなくてもできたことが、遠隔においては、様々な制限があり、達成と言う言葉を用いることの難しさを思います。当たり前のこととして、できることしかできませんでした。他の科目で行われる授業の形と大きな違いが生じないことも大切だと思います。遠隔での通信環境のこととか。個人的には、学生の皆さんの言葉に、励まされることも多々あり、新しい発見もそのやりとりのなかで与えられたことを感謝しています。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教と文化	2	後期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、キリスト教で学んだ知識をもとにキリスト教に関する視野を広げていく内容である。キリスト教の歴史について概観した後、聖書を土台とした芸術作品を鑑賞したり、文学作品を味わったりすることによって、学生自らの人生に語りかける聖書のメッセージについて考えることができた。今年度は少人数であったので、グループではなく、個人でキリスト教に関するテーマを自由に設定し、調査・発表を行い視野を広げていき、全員が各々の興味関心についてレポートを書くことができた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては3.7であり、到達度自己評価の平均値は3.1であった。トータルの成績の平均値は約80%以上。聖書を土台として西洋の文学作品・芸術作品に触れるという、教育目標はやや達成されたと言えよう。また、チャペルレポートの提出やクリスマス礼拝への参加は95%以上であり、コメントカードの内容と感想文の内容から、チャペルや教会訪問を通し、キリスト教の価値観を養うことができる、という行動目標も達成された。 1. 著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察できる。 2. キリスト教に関連するテーマを調査し発表を行い、教養を養うことができる。 3. チャペルや教会訪問を重ねることを通し、キリスト教の価値観を養うことができる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目はキリスト教学を終え、更にキリスト教について深めたい学生が中心に受講している。本学の要となる聖書の内容を学ぶキリスト教の学びを踏まえ、展開している。聖書の学びを前提としての発展的な学びであり、文学や芸術に関して幅広く扱っているが、全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察し、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表を行い教養を養うことができる、という行動目標については、今年度は少人数であったため個人での調査と発表を行った。発表においては、学生同士の積極的な意見交換が行われ、活発なグループディスカッションとなり、学生自らが習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本講義は、キリスト教の学びをより深めたい学生の興味に応じることが重要である。授業の質評価の平均が3.6であったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義としては質評価の結果に表れているように妥当であったと言えるが、今年度は急遽、遠隔授業となったため学生のグループ発表をすることができなかった。今後はオンラインであっても、様々な学科の受講生との多角的な意見交換ができるような方法を工夫したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	はい	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は63名（回答率81.8%）であった。学生の受講動機は「必修科目である」が95.2%であった。このほか、「単位数を確保する」が27.0%、「資格取得に必要である」が14.3%、「関心のある内容である」が12.7%であった。この科目は、全体での共通の講義のほか、教員のオムニバス形式(6回1クールで行うので、実際に学生が受講する教員は2名)で行う科目であることから、各教員の専門性を重視しつつ、「初年次セミナーⅡ」で学んだ「調べる」「聞く」「読む」「書く」ための技能に加えて、「発表する」「討論する」ための技能を身につけることを目的として授業を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価について、理想的レベル（90点以上）に達した学生は11名、再試験対象者は0名であった（ほか、休学者1名）。到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.0、「自分なりの目標を達成した」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値がいずれも3.9、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値が3.8であった。その他の項目の平均値も3.7～3.4を示しており、昨年度とほぼ同様の数値を示している。前期の「初年次セミナーⅡ」と比べても若干数値は低いものの、ほぼ同様の傾向を示している。学習量については、授業の準備を1回も行わなかった学生が7名、2、3回行った学生は16名、4、5回行った学生は15名、6回行った学生は15名であり、「初年次セミナーⅡ」に比べて学習量はやや増加している。また、図書館の図書、雑誌を利用した学生は8名、学術データベースを利用した学生は5名であった一方、インターネットを利用した学生は50名であったことから、ほぼ遠隔授業となり、大学に来ることができなかった中で、インターネットで積極的に調べようと努力した跡がみられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「総合人間科学科目」であり、大学における学習の技能を身につけるための科目である。当然福祉の専門領域を学ぶための技能を身につけるための科目でもあり、内容的には妥当であると考ええる。②DP,行動目標から見ると、すべてのDPの基礎となる内容を網羅しているともいえる。よって、内容的妥当性には問題ないと考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値が4.3、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が4.2、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」の平均値がいずれも4.0であった。これらの数値については、昨年度とほぼ同様であるが、前期の「初年次セミナーⅠ」よりはやや低下している。学習量について、授業の復習を全くしなかった学生は9名、授業の課題以外の学習に取り組んでいない学生は36名と、昨年度より大幅に減少している。授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は27名であった。具体的に取り組んだ学習は「インターネットで分からない所を調べた」など、インターネットを利用したとの回答が多かったが、これらは授業の課題と密接に関連する学習でもある。他方、授業の課題以外の学習に取り組まなかった理由については、「他教科の課題で手一杯だったから」、「何をすればよいか分からなかった」、「授業の課題で精一杯だった」などの意見がみられた。学習の技能については、振り返り、繰り返しながら徐々に身につくものでもあり、学生が積極的な学習姿勢をとるための動機づけが今後の課題であると言えよう。学生の意見については、「レポートの手順が分かり良かったです」、「大学卒業した後、今回の授業が大切になるので良い講義になりました」、「ディベートや自分の意見を人前で述べるのが大嫌いで避けてきましたが、今回のディベートがみんなとよく話し合っって楽しく進めることができたので苦手意識が薄れました。やるなら勝とうと
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	この科目では、全学共通の総合人間科学科目として、「調べる」「聞く」「読む」「書く」技能の習得に重点を置いた「初年次セミナーⅠ」を基礎として、研究倫理のほか、さらに「発表する」「討論する」技能の習得を目指したが、当初の目標はおおむね達成できたと言える。次年度以降も「初年次セミナーⅠ」「初年次セミナーⅡ」を通じて、専門教育が本格化する2年次以降の学習をより深めるため、大学で学ぶための基礎的な知識、技能を身につけることを目指す。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	いいえ	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、本来からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業である。しかしながら、2020年度後期は新型コロナウイルス感染拡大の影響により遠隔授業になった。 授業の前半ではラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の試合動画を視聴させ、選手の動きなど気付いた点をまとめさせることによって、各種目に必要な技術・戦術、体力などについて理解させるようにした。授業の後半では遠隔授業に伴う伊運動不足を解消するために、筋力トレーニングなどの動画を視聴しながら、実際にトレーニングを実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81.8（±5.5）点であった。成績分布別にみると、90点以上が6%、89～80点が63%、79～70点が28%、69～60点が3%であり、すべての学生が標準的レベルに達しており、69%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が42%、「わりにそうだと思う」が36%、「まあまあそうだと思う」が18%であり、ほとんどの学生（96%）が肯定的に捉えていた（平均値4.1）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が25～43%、「わりにそうだと思う」が36～39%、「まあまあそうだと思う」が16～31%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.8～4.2）。 「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が22%、「わりにそうだと思う」が33%、「まあまあだと思う」が37%であり、多くの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.7）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学・全学共通科目の「女性と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の技術練習およびゲームを行った。「全体を通した」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「知識・理解（DP1）」、「態度（DP4）」、および「技能・表現（DP5）」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.6～4.3であった。 また、学生から担当教員への意見として、「運動不足が解消できました。ありがとうございました」、「家でも運動ができてよかったです」、「授業で習ったストレッチを自らすることが増えました」など、肯定的な意見がみられたことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、より多くの学生に運動習慣を根付かせることである。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	はい	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。オンライン化で実施することとなったため、史料はネット上で見られるものを中心に準備した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標とし、オンライン化に伴い、毎回の授業の理解を確認するための課題を提出させたが、概ね内容は理解していると判断された。とはいえ、歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。レポート（試験）の結果からみると、授業の内容よりもインターネットなどからの引用に頼る学生もいた。授業の内容が理解不足にある学生は、レポートの評価理由をメールで説明し、史料の使い方についても指導した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、図表を多用した資料を活用した。おおむね内容的妥当性は認められるが、学生の歴史的知識を個別的にふまえた上で講義を進める必要はあった。一部の学生においては現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題と日本の女性の近代化と結びつけた理解は不十分ではあった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、高校教科書の図表なども使用し、独自の資料集を作成した。前回の双方向的なやり取りが不足した点は、こちらから質問を投げかけるようにした。前年度まで課題となっていた、学生の人数に対する教室の狭さについては、オンライン化によって解消された。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	女性史は範囲が広いため、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、学生の関心を現状のジェンダー課題、すなわち固定的性別役割分担意識に集中させることができ、知識の理解を深められたと評価できる。日本の歴史を学ぶことを通して、国際的な情勢を理解し、日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めるのが課題である。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	そもそも文学とは何かということも認識しないまま、ただシラバスを見て面白そうだから…と言って受講する学生に対して、私個人としては、日頃から文学的考察をしない学生たちの一歩として、大切な入口であると思っている。したがってそのような学生を心から歓迎するとともに、「文学は実学である」ということを講義しなければ。。と意を強くしている次第である。よくぞ私の講義を受講してくれた・・・と。文学的考察とは人の心、時代背景、歴史観、言語、表現といったすべての事柄を含むので、ひいては最終的に「いかに生きてゆくのか」という必要不可欠な概念の解答を導き出すヒントが与えられるものであること、そしてその根幹を掴むことを目的として講義した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義を重ねるごとに、学生の反応に活気があふれてきたこと、また学生からの感想文などをもとにこちらが返答する形に講義を進めていった結果、学生自身の学びの自覚が見られた後、80%近くまで士気の高まりが感じられた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ等々における本科目の位置付けから見た内容的妥当性は良かったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	リモート授業ではあったが、学生の集中は途切れることなく、反応はかなり良かったように思う。ただし、文学の場合は、古典であれ、現代のものであれ、その作品に実際に触れて、手に取って時代を感じることも実は重要なことであるが、それが出来なかったことは、非常に残念である。いずれまたコロナ終息後には実施したいと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況の総括的評価としては、今年度は80%である。さらに伸びるよう、工夫を重ねてゆきたいと考えている。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は49名（回答率80.3%）であった。受講動機を見ると、「資格取得に必要である」69.4%、「必修科目である」44.9%、「単位数を確保する」38.8%、「関心のある内容である」34.7%であった。教職必修科目であるが、今年度も福祉学科の1年生の多くがこの科目を受講した。憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今年度は一時期を除いて、ほぼすべて遠隔授業で行ったことより、授業中の確認テスト、コメントおよび前期・後期終了時のレポートで成績評価を行った。素点の平均点は80.48点であった。再試対象者は0名、理想的レベル（90点以上）に達した者は4名であった。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値がともに4.1、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が3.9、「自分なりの目標を達成した」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値がともに3.8であった。他の項目の平均値は3.1-3.7の間にあり、全体的に昨年度より上昇している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目であることに加えて、シラバスにも明記してある通り、福祉専門科目である「権利擁護論」で学ぶ内容の基礎となる。加えて将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考ええる。よって、内容的妥当性には問題ないと考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値が4.2、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」の平均値はともに4.1、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が4.0であった。いずれも昨年度より上昇している。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は9名、復習を全くしなかった学生は6名と、回答者が少ないとはいえ、昨年度より大幅に減少している。授業以外の学習として「復習」、「インターネット検索」、「興味のあったものの裁判の事例などを調べた」、「新聞やニュースを見て、法律の視点でまとめた」などの記述があった。他方、授業以外に学習していない理由として「他教科の課題で手一杯だった」、「特にすることがなかった」、「授業内で理解できるから」などの記述が見られた。学生の意見については、「ありがとうございました」などのねぎらいのほか、「憲法のことに関心がわきました」との記述が見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな教養のもと、社会を多面的に捉える基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考えており、特に改善すべき課題はないと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目であるが、科目名は多様な内容を含んでいる。そのため、関連分野の学科に所属する学生はともかく、それ以外の学科の学生にとっては具体的に何を学ぶかをイメージしにくい科目といえる。今回の受講動機をみても「単位数を確保する」を動機とする回答が福祉学科では88.9%、英語学科では73.7%と高い数値が表れていた（一方で本科目名に使われている「文化」に関する観光文化学科は「関心のある内容である」と回答した学生が80.0%であった）。開講時点で学生の多くは関心意欲がそれほど高いわけではないことはある程度想定していた。そこで毎回の授業では異文化コミュニケーションの基礎知識を理解する設問である「確証チェック」を行なった。学生たちが具体的な事例に基づく問題を解くことにより、理論を実践的に捉えてもらう狙いがあった。 ②本科目の授業では専門的な用語が頻出し、授業への理解が困難となる可能性があるため、毎回の授業の終りに授業内容のまとめ問題を実施し、授業内容の復習を行った。途中からオンライン授業に切り替わったため、毎回の授業の課題としても提出してもらった。 ③映像を通して理解してもらうため、「差別」そして「異文化対立」に関する動画を見せ、それぞれの動画内容について学生自身の考えをレポート形式で書いてもらった。 ④全14回の授業のうち前半と後半において知識理解を確認するための小テストを実施した。当初は持ち込み不可という条件で行う予定であったが、オンライン授業に切り替わったため、オンラインテスト形式に変更した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は4つの学科にそれぞれ所属する100名近くの学生が受講していた。最終的な成績の平均値は75点以上であり、再試対象者はいなかったため、全員が標準的なレベルに達したと言える。 学生の到達度自己評価に関するアンケートでは、「自分なりの目標を達成した」の回答が4学科平均4.0であり、学生自身も本科目の知識理解に関しては達成感があったと考えられる。その一方で学習量の評価では授業前の予習に30分以上かけた学生の回答が半数以下であった。昨年度はテキストを使用しなかったため、学生個人で予習を行うことが難しかったことが原因として考えられる。今年度はその反省もふまえ、学生個人にテキストまたは事前にアップロードするレジュメを使って次回授業に該当する部分を予習してもらう予定である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 「知識理解」に関する達成度は4学科平均4.1以上と高い結果であった。「態度」に関する達成度は学科によってバラつきがあり、英語学科が平均値4.3、観光文化学科および看護学科が平均値3.9に対し、福祉学科は平均値3.6とそれほど高い結果とはならなかった。学生たちの成績も一定以上であったことから内容的には妥当であると考えられるが、学生たちに内容に則したQ&Aやアンケートを実施は毎回の授業で行うなど改善の余地はあると思われる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が一部の学科では3.2と低かった。昨年度の課題でもあったため、今年度は学生が話し合う場としてグループ討論を実施する予定だったが、コロナ禍によりオンライン授業に切り替わったことでそれが叶わなかった。オンライン授業形式ではグループ討論を行うことが難しいため、代替案として授業の合間にチャット形式でQ&Aに回答してもらう、こちらから質問し学生に音声で答えてもらうといった方法を試みていく予定である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度はコロナ禍の影響もあり当初の予定から変更を余儀なくされる授業が多々あった。それでも全体的な成績や、知識理解、態度といった学生の到達度自己評価の平均値のいずれもが前年度より大幅に上がったことは、昨年度からの課題であった学生の知識形成の達成と授業自体の質を上げるという目標が十分に達成されたと考えられる。 課題としては予習ならびに復習時間の向上が挙げられる。この点に関して、今年度は事前にGoogle Meetで次回使用する授業レジュメを掲示し学生にダウンロードしてもらう、次回授業に該当する部分をテキストで予習してもらうといった方策を行なう予定である。一方で昨年度から継続している毎回の授業終わりのまとめ問題の実施は、今年度も再試対象者がゼロという結果につながった。この方針は今後も続けていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話入門	1	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	For this course we continued to use the textbook "Four Corners 1" (Cambridge), which guides students through practical exercises aimed at improving spoken English skills. Students engaged in listening practice, dialogue drills, information gap exercises, role plays, reading comprehension, and vocabulary building for the second half of the textbook.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 2 main criteria (class tasks and participation 80% and a final test 20%). Grades ranged from the 60s to the 90s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students were mostly enthusiastic, positive, and willing to learn. This positive outlook contributed to a high level of participation and increased understanding of the material. Opportunities to build skills (DP5) were provided throughout the course with many students taking advantage of the opportunity to learn.
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Goals for the next term include continuing to improve integration of supplementary materials into the current curriculum and increasing opportunities for kinesthetic learning (space permitting).
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	Streamlining and improving note taking and completion of class preparation exercises will improve the accuracy of individual assessment and keep students focused on class objectives.

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル発展	1	後期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期で習得した知識や学習のコツなどを踏まえて、さらに韓国語に対する知識を深く身に付けられるよう、筆記や会話の練習を取り入れながら分かりやすい授業になるよう心がけた。また、受講動機は「関心のある内容」が100%を占めていたこともあり、韓国の社会や文化などにも触れながら授業を進めていくことで、語学の習得と韓国社会や文化への理解の相乗効果が得られたと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎週の提出課題についてみると、回数が進むにつれて学習の成果が表れており、後半に向けては皆が完成度の高い内容の課題を出せるようになった。到達度自己評価の多くの項目において、3以上であることから、教育目標は到達したと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国・地域に興味をもち、言葉に現れる文化の違いなどを理解し、また実際に韓国語を話すことによって異文化への理解を深めながら学習が可能になったと思うので、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進度は課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に質問を受けて指導にあたったりもした。遠隔授業の進め方については学生からアンケートを取り、意見を取り入れながら授業の作成に臨んだ。結果、授業の質評価では中央値5の評価が得られた。履修すべき語学の目標レベルには十分に達したと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本講義は、前期で身につけた基礎的学力を踏まえて、発展的な文法知識の習得と日常における実践的会話能力が備わることを目指しているが、講義の履修後にも韓国語を継続的に学習し続ける学生が少なくないなか、そうした学生が今後も多く現れ、韓国語によるコミュニケーション力をもってして日本と韓国の相互理解を深めていける人となれるよう、今後とも微力ながら努めていきたいと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	花沢 明俊

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講人数が少なかったことと、個人差はあるものの全体的に経験値が高く、授業進行が容易であり、受講者の理解度に合わせて、授業の進行速度や内容を調整することができた。エクセルによる統計処理とVBAを中心に講義を行い、情報処理基礎で学んだ基礎的知識をベースとした主体的・実践的な内容となることを重視した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。ただし、授業内容を主体的・実践的に使いこなせるレベルまで到達したのは、一部の学生のみだった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、在学中のレポート作成や発表など、さらには、就職後の実務において、データの扱い方の理解と効率化を目的としている。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけではなくグループワークによる能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であるが、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は非常に高いものの、履修率が低いため、本科目の意義を理解している学生は、学科の全学生の1割程度と推測される。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	エクセルによる統計処理およびVBAの両方について授業を行ったが、途中から遠隔授業となり、質問の受け答えなどについて制約が大きくなったことから、理解度を上げるペースがスローダウンした。それに応じて、グループワークを削るなど、実践的な内容よりも基本的な内容の理解に重点を移した。次年度は、授業外の質問などでのコミュニケーションを円滑化するための情報ツールを導入する予定である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得点であり、高い達成度が得られた。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、そういった状況の中で、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では9割以上の学生が肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことをこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、2年後期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容となっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP, 行動目標からみての内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、ほとんどの学生が肯定的な回答をしているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、あっ票するなど、学生が参加する機会が作られていた」と「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について、それぞれ4名、2名の学生が「全くそうではないと思う」と回答している。昨年度、予想を遥かに超える受講生であったため、教員からの一方通行の形でしか授業を行うことができず、対応に苦慮した。課題が提出できているかどうか不安に思った多くの学生から一斉にメールが送られてくることがあり個別の対応が難しかったので、課題の提出ができているかどうかについては個別の対応をせず、提出できていない学生にこちらから知らせるという形にしたが、それを「メールで質問してはいけない」と理解した学生もいて、そのことが大変不安だったということを後で聞いて、大変申し訳なく思っている。口頭と文書の両方で、指示が徹底するよう努めたが不十分であった。次年度は、伝わりにくい部分がないように工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	はい	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、主体的な意識で授業の望めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。特に、看護師という資格を有しても働き方は多様であることに気づくよう、事例を示して働きかけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後のコメントカードや、期末レポートで測った。特に、レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。学生は概ね、基準に到達していたが、一部、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまり、社会構造と関連づけられない学生がいた。到達していない学生には社会的視野について解説して再試験を実施し、この段階で全ての学生が基準を達成した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義やDVDの鑑賞に加えて、労働法では弁護士に解説と過労死された方の遺族の話、専業主夫の体験談、本校助産教授による性的自立の解説、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、知識を得るだけでなく共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。当初は対面で授業を実施していたが、コロナ感染拡大防止のためにオンラインとなった。外部講師の講義もオンラインでの受講となったが、コメントカードを見る限りでは、概ね学生たちは集中して話を聴くことができたようであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。依然として課題は人数が多いため個別的な対応ができないことであるが、コメントカードの回答に対してメールのやり取りのできた学生はいる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代社会と福祉	3	通年	必修	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（3年次・必修）の1つである。内容は、主に福祉政策に関するものであり、学生にとってはやや難易度が高いと思われる。したがって、授業は教科書を中心に展開し、単元ごとにレジュメを作成した。また、遠隔授業を考慮した進行を行うとともに、図表・イラスト等も積極的に用い、学生の内容理解を助けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験の平均は77.9点であり、教育目標はある程度達成したと考える。授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、「自分の目標を達成した」（かなりそうだと思う23.6%、わりにそうだと思う44.3%）が見られた。また、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う29.5%、わりにそうだと思う49.29%）であり、目標をある程度達したと言える。「思考判断」（DP2）は、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う26.2%、わりにそうだと思う42.6%）であり、目標をある程度達成したと言える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（かなりそうだと思う26.2%、わりにそうだと思う44.2%）であり、これもある程度、目標を達成したと考える。 一方で、授業評価アンケートでは、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」（していない70.5%）、「授業の予習・復習」（していない39.3%）が見られ、学生の自発的学習態度の涵養という点で課題が残った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 既述の通り、期末試験の平均点は77.9であった。また、学生の到達度自己評価においても本科目の教育目標はある程度達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は、旧カリキュラムにおいて1年次の開講であったが、難易度がやや高く、本年度より3年次の開講となった。期末試験の結果や教育目標の到達度を見ても、CP・カリキュラムマップ上の位置づけに問題をないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目の教育目標はある達成されたものの、「学習量の評価」を見ると、予習・復習に1回も取り組んでいない学生が39.3%見られた。今後は、学生の自発的な学習態度を引き出す観点から、授業運営の改善を図っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生にとってはやや難易度が高いと思われた本科目であったが、教育目標はある程度達成できた。これには単元ごとのレジュメの作成、図表・イラストの積極的活用などが有効であったと考える。引き続きこれらの取り組みを行っていきたい。 一方で、学生の自発的学習の促進という点では、昨年同様の課題が示された。授業を通して抱いた福祉への興味・関心を自ら主体的に深めていく学習態度をどう培っていくか、今後も考えていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会学概論	1	後期	選択	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○高校時代までに経験したことのない授業であり、いったい何を学ぶのかという戸惑いが大きい科目である。それを興味関心に結びつけることができるよう、様々な事例を準備した。 ○社会福祉士国家試験に対応した授業であるが、受講学年が1年生であるため、学習意欲との直接的な結びつきはないと考えられる。 ○抽象的概念が多く出てくるため、それを具体的に考えるトレーニングを行う旨を初回授業で説明し、学生が意識的な授業参加をできるよう促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○平均点93.7点。秀65名（81.3%）、優9名（11.3%）、良7名（8.8%）、可2名（2.5%）、不可1名（1.3%）。SD10.1。 参考：昨年度平均点79.0点。秀29.7%、優10.8%、良28.4%、可31.3%、不可0.0%。 ○問題難易度は例年程度であったが平均点が大幅に上昇し、8割が秀という結果になった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○社会福祉士国家試験の受験科目と対応しており、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置付けからみた内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○本年度は例年程度の問題難易度にもかかわらず大幅に成績が向上した。要因としては1年生にオンライン授業・試験を実施すること で繰り返し模擬テストを実施したため、これが復習の機能を果たしたためと思われる。 ○成績向上という点では満足できるが、学生の実力を試験によって弁別するという意味では試験問題が易しすぎたといえる。本年度のよう な指導方法であれば例年以上の難易度の問題を増やす必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○次年度はテキストが変更になるため学習内容、試験内容が一部変更となる。それに伴い学習成果も影響を受けると予想されるため、一度 に大幅な試験難易度の上昇は難しい。多面的・多角的に考える問題を増やすなど、段階的に工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の基盤と専門職	1	通年	必修	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験に関する科目である。特段、社会福祉専門職になるための基盤となる科目であり、本学科で非常に重要な科目であることから、動機付けを大切に講義している。 第一回目の講義時に受講に関しての詳細の説明をし、シラバスに則って講義を進めた。講義の最初には、新聞等から毎時間必ず時事に関する話題を提供し、それが社会福祉専門職としてどのように捉えたらよいかを考えさせる時間を設けた。予習復習の内容の説明、理解しておくべきキーワード、実践につなげがるように専門職能団体の研修会案内等々も随時行った。リアクションペーパーに関しては、予習復習の時間の記入や、その方法、また本日の自己採点点数記入などを導入し、学習意欲の向上に努めるよう工夫した。 なお、今年度に関しては殆どがweb講義での対応となり、学生の反応を直接確認することはできなかったが、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、出席日数が足りない学生を除いた受講学生が合格領域に到達しており、標準的レベル以上に達成したものと考えられる。定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。また、遅刻や欠席がほとんどなく、定期試験の結果も理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけではなく、幅広く社会福祉専門職としての現状や考え方、障害福祉、精神保健福祉、貧困等々の多岐にわたる分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格を取得するための必須専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、社会福祉を学ぶための1年生で開講する基礎的科目であることから、福祉専門職に興味があるということで、非常に高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見での内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解は一定程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目ということと、福祉学科に入学して初めての福祉の専門科目ということで、非常にモチベーションの高さを感じられた。また、今から開講される、社会福祉士や精神保健福祉士の関連科目とのつながりを考えて、思考が継続できるように教授を行った。次年度も、それらに引き継ぐような関連性を持ちながら講義を行いたいと考える。 また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回福祉業界の時事に関する資料配布し、その説明を行い、福祉専門職としての理解を深められたと感じられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目ということと、福祉学科に入学して初めての福祉の専門科目ということで、非常にモチベーションの高さを感じられた。また、今から開講される、社会福祉士や精神保健福祉士の関連科目とのつながりを考えて、思考が継続できるように教授を行った。次年度も、それらに引き継ぐような関連性を持ちながら講義を行いたいと考える。 また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回福祉業界の時事に関する資料配布し、その説明を行い、福祉専門職としての理解を深められたと感じられる。 Web講義ではあったが、対面講義同様の効果はあったものと思われる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	高口 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の理論と方法Ⅰ	2	通年	必修	いいえ	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が93.8%であり、「資格取得に必要である」が46.9%と高い水準である一方「関心のある内容である」が15.6%であり受講動機は低めであると考えます。対人援助職を目指すものにとって基本的な知識を得る教科であるため、授業では事例や教科書に沿った演習を取り入れながら、具体的イメージをもとに興味関心が高まるよう取り組んだ。また、教科書の事前予習や配布資料を用いた穴埋めなどを毎回行い、予習・授業・復習を徹底して行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価は全体平均4程度であり、「知識の修正・確認・新たに得る」が4.2と高かった。一方、「コミュニケーションや表現力を高める」が3.5と全体をみると低めであったため、相談援助の基本となる面談スキルのロールプレイなど取り入れていきたい。さらに予習時間が短かった様子がうかがえるため、学生が主体的に学習に取り組めるよう課題を設定し問いや考察を深める機会を取り入れたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は「必修科目」であり、対人援助における相談支援の基盤となる知識を高める教科である。感想には「相談援助のにおけるクライアントとの向き合い方を学んだ」などの感想があり、学習達成度の自己評価からみても、DP、CPともに内容は妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について「評価基準が明らかである」の平均値4、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.1、「説明は理解しやすいものであった」4、「口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、答える機会が作られていた」の平均値は4.1であり、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表する」の平均値は3.8と他の項目に比べると低かった。今後は、考察や意見交換の時間を意識的に設けたい。学習量の評価では、積極的に記録を取り入れたこともあり、期待以上に予習復習に取り組んでいる様子が伺える。更に理解を深めるため、学生が自主的に調べて考察することが出来るよう工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	相談援助の基本的知識を「学ぶ」時間と、学んだことを要約し記録する時間を多く設けたことから、学生の知識向上につながったと考える。その結果、相談援助に対する理解や関心が高まり、自己評価に繋がっていると考える。さらに、ディスカッションの時間などを積極的に取り入れ、交互交流の中、自身の考えを深め気づき合う機会を設けたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の理論と方法Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機については、「必修科目である」85.7%、「資格取得に必要である」46.4%、であった。本科目は1年次の「相談援助の基盤と専門職」、2年次「相談援助の理論と方法Ⅰ」での学習内容の理解を前提とした科目であると同時に、「相談援助の理論と方法Ⅱ」では難度が高くなり、これまでにこの科目に関心があった学生でさえ学習意欲の低下、理解が困難になるなどのおそれが予想される科目である。ソーシャルワークを学ぶ上でなぜこのような内容の理解が必要であるのかということ、今学んでいることがソーシャルワーク実践にどのように位置づけられるかということを伝えることに努めた。また、例年は実習を終えた後の授業においては、実習での経験や学びを意識して学びを深めることにつながるよう授業を進めているが、今年度においては新型コロナウイルス感染拡大により実習に行くことができない状態が長く続いていたため、より具体的に詳細な実践事例を用いることにより、クライアントの状況について考察を深め疑念的に共感することを体験できるよう努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価においては、「知識・理解」（DP1）において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う36%、わりにそうだと思う34%）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う25%、わりにそうだと思う46%）、「思考・判断」（DP2）においては、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（かなりそうだと思う29%、わりにそうだと思う38%）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う25%、わりにそうだと思う43%）、「関心・意欲」（DP3）においては「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（かなりそうだと思う27%、わりにそうだと思う45%）、「態度」（DP4）においては「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う27%、わりにそうだと思う39%）であった。本科目における教育目標はある程度達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記載したように、試験の結果、学生の学習到達度自己評価から、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。 ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次「相談援助の基盤と専門職」および2年次「相談援助の理論と方法Ⅰ」での学習内容の理解を前提とした科目であると同時にこれら2科目と比較して難度が高くなるため、これら2科目での学習内容を振り返りつつ、他の関連科目での学習内容も取り入れつつ、総合的かつ包括的にソーシャルワークを実践するための視点と求められる知識を培うことを意識した授業内容と展開を心掛けた。相談援助に関わる関連科目での学びの統合が求められる科目という点から、適切な位置づけである。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、平均値3.9～4.1であり、一定程度の評価を得たと考える。一方、「1回30分程度以上の予習・復習」を約半数の学生が一度も行っていないと回答したことは反省点である。その理由として「授業で十分学べたと思ったから」「授業の始めに前回の振り返りがあり、そこで再度理解できたから」「レジュメの内容が濃かったから」「授業内容で十分だったから」等の肯定的な意見も見られたが、学生がさらに学びを深めたい意欲をもち、自発的学習につながるような授業を工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目において、ソーシャルワークの実践に関する知識と相談援助事例に関してどのように事象を捉え、考察するかという視点を養うことはある程度まで達成できたと考える。授業での学びだけにとどまらず、学生の学びを深める意欲を引き出し、主体的自発的に学ぼうとする態度の形成につながるよう、さらなる改善を行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域福祉論	2	通年	必修	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期は、地域福祉の基礎概念や民生委員、社会福祉協議会、共同募金等の地域福祉を推進する主体について講義を展開した。後期は、前期の学びを踏まえ、地域福祉を推進するためのソーシャルワーク（「地域福祉援助」）を中心に講義を展開した。具体的には、従来から社会福祉協議会等の基本的な実践技術であったコミュニティワーク（地域福祉の基盤づくり）に加え、近年、「社会的つながりの弱い人々」や「制度の狭間」、「複合課題」などへの対応として重視されるようになったコミュニティソーシャルワーク（地域を基盤としたソーシャルワーク）についての内容にて通年を通して講義を構成した。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。なお本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、遠隔システムを軸に授業を展開した。① 講話法を中心とした講義の展開が主であった。地域福祉の視点は、福祉専門職のみならず、教職・保育などと地域を担う支援者において横断的な理解が求められる。そのため3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。③ 前期及び後期の半ば(8コマ目)には、これまでの講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。④ 本講義の特性上、地域福祉に係る知識の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促し
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、78点であり、再試対象は0名であった。本年度は遠隔授業が中心であったが、全員が標準的レベル及び理想的レベルに概ね達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、中央値4.0に対して、（2）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と（3）「事象を理解する点や考え方を得ることができた」が平均値4.2であった。次に（4）（6）（10）の順であった。3「授業の質評価」は中央値の水準であった。 知識理解に関しては、地域福祉の観点からその知識について問うものである。地域福祉の概念・歴史、法律・制度、近年の地域福祉の問題等については、広範な情報量となるため、現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士・精神保健福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、地域福祉の概念・歴史、法律・制度、サービスを理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は地域における地域福祉の推進の主体や概念、近年の地域社会における福祉的課題の現状を踏まえて、地域における地域住民の役割、地域の支援機関・施設、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の地域福祉の展望等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による地域の実情(福祉的課題、地域の動向等)、福祉法制度・サービスの動向を注察する必要があるが、2020年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から表現技能に関する達成度が比較的低かったが、今後の社会状況の変化による地域の実情(福祉的課題、地域の動向等)、福祉法制度・サービスの動向等についての表現の機会が少なかった点では方法的妥当性の問題である。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題(具体的な事例)を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学び
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.6と全体数値よりも低かった。本科目は地域における地域福祉の推進の主体や概念、近年の地域社会における福祉的課題の現状を踏まえて、地域における地域住民の役割、地域の支援機関・施設、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の地域福祉の展望等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。そのため、考え、話し合い、発表する機会が少なかった。次年度に向けて関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門を学ぶ位置づけであることから、地域福祉に関する知識の形成については概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、地域福祉は広範な知識を取り扱うため、イメージしにくい課題があると考え。そのため事例の検討や演習活動を一部取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会保障論	2	通年	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は41名（回答率53.9%）であった。受講動機を見ると、「必修科目である」100.0%、「資格取得に必要である」31.7%であった。 本学科における必修科目であるとともに、社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、法改正が頻繁に行われる社会保障制度について、最新の情報を提供することに努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	後期の一時期を除いて、ほぼすべて遠隔授業で行ったことより、今年度は授業中の確認テスト、コメントおよび前期・後期終了時のレポートで成績評価を行った。素点の平均点は74.84点（福祉・養護教諭コース2年76.31点、子ども家庭福祉コース2年67.85点）であった。再試対象者は0名、理想的レベル（90点以上）に達した者は2名であった。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値はともに4.2、「自分なりの目標を達成した」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値がいずれも4.0であるほか、その他の項目の平均値は3.9-3.5であり、いずれも昨年度を大幅に上回っている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。試験の平均点が60点台とやや低い、これについては、学生の授業以外における学習量の問題であると考え。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であると考え。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値はいずれも4.3、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.1であり、いずれも昨年度より大幅に上昇している。学習量について、予習をしていない学生が30名、復習をしていない学生が26名と、授業以外の学習をしていない学生が以前として多くを占めている。その理由については、「時間がなかった」、「他の講義のレポートや課題があったため」、「授業の内容を中心に学びを深めたため」などの回答がみられた。他方、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習について「友人と復習」、「レジュメを見返した」、「気になったことについてネットで調べた」、などの回答があった。学生の意見については、「くまがかわ良かったです」、「日本の社会保障制度について詳細に知ることができました。また、様々な制度を学ぶ上で日本の抱える課題について気づくことができました」、「社会保障は生きていく上で知ってて損のない分野だと感じ、毎回とても楽しみに講義を受けることができました」とのコメントが見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えており、現時点で改善すべき点は特になく考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
高齢者福祉論	2	通年	必修	いいえ	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、2年次を対象とした福祉専門科目（必修）であり、社会福祉士指定科目の1つでもある。授業は、教科書を中心に展開し、単元ごとにレジュメを作成するなど、学生の内容理解を助けた。また、本年度は遠隔授業であり、例年以上に説明の内容や方法に工夫と配慮を行った。授業後には、コメントカードを提出され、学生の理解度の把握に努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験の平均は78.1点であり、本科目の教育目標はある程度達成されたと考える。授業評価アンケートでの学生の到達度自己評価においても、「自分なりの目標を達成した」（まあまあそうだと思う34.2%、わりにそうだと思う54.8%、かなりそうだと思う6.81%）が示され、目標はある程度達成されたと考える。本科目の該当DPと学生の到達度評価の対応を見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う47.9%、かなりそうだと思う31.5%）となっており、目標をある程度達成できたと言える。「思考判断」（DP2）については、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」（わりにそうだと思う46.6%、かなりそうだと思う19.2%）であり、目標をある程度達成できたと考える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う58.9%、かなりそうだと思う11.02%）であり、これも目標をある程度達成できたと考える。 一方で、授業評価アンケートからは、本科目を通して知識の修得はできたものの、学生の主体的学習態度を引き出すと言う点では課題があることが明らかとなった。例えば、学生が授業の課題以外に学習に取り組んだ割合は、「していない」（87.7%）であった。また、授業参加のための準備学習（30分程度の予習）をしていない学生が69.9%、授業の復習をしていない学生が57.5%見られた。図書の学術データベースやインターネットの利用も低調であった（「利用しなかった」が各97.3%、87.7%）。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①D P 上の位置づけ 試験結果（平均78.1点）や学生の達成度自己評価結果からも教育目標は概ね達成しており、D P 上の位置づけに問題はないと考える。 ②C P、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は福祉専門科目（必修）であり、社会福祉士指定科目でもある。3 年次の相談援助実習の領域の 1 つに高齢者福祉領域があることから、本科目の配当年次に問題はないと考える。また、教育目標も概ね達成しており、C P ・カリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目の教育目標はある程度達成したと判断できる一方で、授業評価アンケートからは学生の自発的学習態度を十分に引き出すことができなかったことが示された。また、予習・復習についても十分に組み合わせていない現状が明らかとなった。昨年度同様に、毎回の授業ごとに予習・復習のポイントを的確に提示し、学生の学習量を担保していく必要があると考える。また、課題を課すことも検討する必要があると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標は、ある程度達成できたと考える。しかし、期末試験について、本年度は遠隔による実施であったにもかかわらず得点差に開きが見られ（最高点92点、最低点61点）、学生の理解度には差があることが推察された。この点、毎回提出させるコメントカードの内容を踏まえた復習や小テストの定期的実施も必要と思われる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	秋竹 純

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
高齢者福祉論	2	通年	必修	いいえ	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業担当が初年度であり、基本的にはシラバスに沿った内容で授業を実施した。オムニバスの部分担当でもあったため、前期からの流れや学生のコメントを大切に授業を組み立てた。また、高齢者福祉の中でも介護の各論部分における授業であったので、可能な限り具体的な事例や現在の状況を取り入れながら授業を行うことに重点を置いた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体の成績としてD評価はいなかった。成績の分布を見ても、掲げている到達目標に対して極端に未到達の学生もいなかったと評価する。 学習行動としては、課せられた課題に対し、図書やインターネット、新聞等の活用などを積極的に行っていることが、提出された内容からも判断できた。また、途中から遠隔授業に入っても、授業後の質疑が毎回あったこと、授業後に提出するコメントカードも全員が丁寧に記入し、学生自身が授業を聞いていて感じたことや自分なりの意見を述べており、授業への意欲関心も一定の目標は達成できたと判断できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	他科目で学んだ知識をベースに具体的な高齢者への支援に必要な知識が上積みされる科目と把握している。法律や制度に関連する知識がある程度獲得できている学年であり、専門用語等の理解は十分にできて違和感はなかった。また、講義を進めていく中で学生の身近に介護問題が発生していることや、実際に家族間で起こっている介護問題など、受講動機に繋がることや自身が獲得したい知識が明確に定まりつつある学生もいることから、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけは妥当である考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生は講義中も含め課題レポート作成においても熱心に取り組んでいた。また、授業終了後に提出を課している受講のコメントでは、授業内容に関する質問、自身の身近な問題への気づき、刺激されて新しく興味が湧いたことの報告など多岐に渡り、遠隔とはいえ想像以上に学生は積極的に授業へ参加していることが伺えた。 レポート課題では、webのみならず、本や新聞など自身で主体的に情報を集めてレポートに反映させている学生が多かった印象である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	当初は対面授業でスタートしたが、急遽途中からは遠隔での実施となり、教員の方がやや準備不足の面もあった。毎授業終了後に学生が提出するコメントは非常に有意義であり、リアルタイムで学生の意見や授業の感想を受取ることができたため、次の回の授業時に改善や補足説明を行うよう努力した。それに伴って知識の習得状況の確認や新しい知識に対する学びの姿勢がこちらでも把握することができた。遠隔であるが学生の受講態度からは積極的な学びの姿勢が伺え、教員も緊張感を持ちつつ授業を実施できた。次年度においては、遠隔授業が決定しているため配布資料および活用する教材をさらに工夫し授業実施に向けて万全の準備を整えたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
障害者福祉論	2	後期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学習の準備性という視点からすると、障害のある人との出会いの経験が限られていることを前提として授業内容を構成している。まず、多様な障害状態について解説し、その後福祉理念や今日の制度へと授業をすすめていった。遠隔授業がほとんどであったため、都度都度の確認を全員に取ることは困難であった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終試験がレポート試験であるため、評価が相対的にすることは否めず、例年との比較が困難であったため。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	概ね妥当である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	遠隔授業の性格上、学生の反応が確認が困難であるができる限り、授業の中で双方向のコミュニケーションをとることを心掛けたが限界がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況について学生のアンケートや授業を通して十分に確認できなかった。どの程度達成されたの評価は、実習指導や演習等でも確認していく必要があろう。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
権利擁護論	3	後期	選択	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は38名（回答率52.8%）であった。受講動機を見ると、「資格取得に必要である」71.1%、「必修科目である」71.1%であった。社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、相談援助に必要な成年後見制度とその知識の前提となる民法・行政法の内容を中心に、なるべく理解しやすく伝えるよう努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	今年度は一時期を除いて、ほぼすべて遠隔授業で行ったことより、授業中の確認テスト、コメントおよび前期・後期終了時のレポートで成績評価を行った。素点の平均点は72.40点であった。コース別の平均点は福祉・養護教諭コース72.49点、子ども家庭福祉コースの平均点は71.78点と、コース差はほぼなかった。理想的レベル（90点以上）に達した者は3名、再試対象者は0名であった。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.2、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値がいずれも4.1であったことをはじめ、他の項目の平均値も4.0-3.6を示しており、回答数が少ないとはいえ、昨年度より大幅に上昇している。					

5. DP, CP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけから見ると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であると考え。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「学生が参加する機会が作られていた」以外の項目「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」、「説明は理解しやすいものであった」などの平均値は全て4.4であり、昨年度より大幅に上昇している。授業以外の学習をしていない学生が28名いるが、授業の課題以外に学習していない理由として「思いつかなかった」、「授業で十分学べたと思ったから」、「時間がありませんでした」などの意見が見られた一方で、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習として「授業に出てきた内容や単語を調べた」、「国試の過去問題集を解いた」、「積極的に関連資料を閲覧して、自分の言葉でまとめたりした」などの意見が挙げられていた。学生の意見については「とても分かりやすい授業でした」と、授業内容に非常に満足しているものが見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えている。授業以外の学習をいかに増やすかが、今後の課題となろう。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	細井 勇

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会福祉の歴史と思想	1	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は資格取得のための指定科目ではないので、この科目に興味関心をもってくれた学生の受講であったと受け止めています。授業への参加とリフレクションを意識しました。しかし、途中からオンライン授業となり、パワーポイント資料をまったく新しく作成することになりました。必ず次回の資料を示すようにして事前学習してもらうことを期待しました。オンラインでは、講義内容は濃くなるのですが、内容が難しかったという感想が何人からありました。また、オンラインでは質問は少なかったのですが、毎回の授業への感想・意見・質問を授業直後に書いて出してもらい、その質問にはオンライン授業で応えるようにしました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体に、授業アンケート評価は改善されたので、上記のようにした。最終課題をレポートとし、中間でテーマと参考文献を挙げてもらい、授業の12回目くらいに最終レポートを提出してもらい、個別にコメントして、学生に返していく予定であった。しかし、コロナによりオンライン授業となり、レポートを練り上げていく作業が大きく制約されることになった。図書館が1年生には利用できない、ということで、文献を調べてレポートを書いていくことが十分できなかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	社会福祉の歴史と思想という本科目のねらに合致した内容の授業ができたと思う。最後は、筑豊の問題や、ソーシャルベダゴジーとは何か、という問題も取り上げたが、学生には興味を感じてもらったようである。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎回の授業では、参考文献を5～10件あげて、自己学習として発展してもらえるようにした。しかし、図書館利用が制限されるなか、困難であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は1年次の必修科目であるが、社会福祉士指定科目でもあり、3年次の「相談援助実習」に向けた最も基礎的な知識・援助技術を学ぶ演習科目である。初年次の学習のため、社会福祉や社会福祉士の仕事への関心を高めることと、社会福祉にかかわる課題や課題を抱える人々に向き合う際の姿勢や考え方を身に付けることを目標に授業を展開した。学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」が93.3%、「関心のある内容である」が33.3%であり、本演習に対する関心は高くはないことがうかがえる。これは例年の傾向であるため、本演習ではできるだけ社会福祉の利用者や実践者などについて、視覚教材を取り入れ、実践場面をイメージできるようにして、社会福祉への関心を高められるよう工夫した。 今年度、福祉的課題をテーマとする回では、学生のプレゼンテーションの機会を設け、グループワークを通して福祉的な関心を高めることを試みた。さらに社会福祉従事者にとって重要な価値・倫理をテーマとする回では、社会福祉士の倫理綱領の倫理基準に関する事例演習を新たに加え、グループワークを通じて理解を深められるようにした。オンラインでの演習で限界はあったものの、ブレイクアウトセッションの機能を活用し、学生同士で学び合える演習ができるよう務めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は83点、中央値83点で、ほとんどの学生が80点以上の成績を収めており、目標は達成されたと考える。学生の学習到達度の自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」の項目については、平均値4.3、中央値4.0であった。目標の1つである福祉的関心を高めるという点については、DP3に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値4.4、中央値5.0であり、目標は達成されたと考える。基礎的な援助技術を身に付けるという点では、DP5に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた」の平均値4.3、中央値5.0、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値4.3、中央値4.0であり、グループワークやコミュニケーションの演習の効果があつたことがうかがえた。ただ「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。次年度はより個別的な対応が必要であると考え。また「職業選択の参考になった」の平均値4.4、中央値5.0となっており、社会福祉士の仕事への関心を高めることも達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は社会福祉士の指定科目であると同時に社会福祉の基礎を学ぶ専門科目として位置付けられている。4. にも記したように社会福祉・社会福祉士への関心を高め、社会福祉に関する基礎的な知識や考え方を身につけるという目標をある程度達成できたという点で内容的に妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 4. に記したように内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価は、平均値4.4-5.0、中央値5.0であり、「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかったため、授業の進め方は妥当であったと考える。 学習量の評価を見てみると、2, 3回以上の予習・復習を行った学生が60-70%、授業の課題以外に学習に取り組んだ学生が60%であった。自由記述にも「授業内で興味関心があったものを自主的に調べたりして資料にまとめていた」との記述があり、ある程度自発的な学習をうながすことができたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は社会福祉士の指定科目であると同時に社会福祉の基礎を学ぶ専門科目として位置付けられている。4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価より、概ね授業の目標は達成されたと考える。受講動機に記したように、初学者に対する社会福祉への関心を高める取組みは今後も重要であると考え。より実践的な内容を取り入れたり、学生が身近に感じられるようなタイムリーな話題を取り入れたりしながら授業を展開し、そのことが自己学習につながるよう努めていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	入学し半年が過ぎたものの、コロナ禍により演習での交流が十分に出来ず不便であったことだと考える。可能な限り社会事象について広く話をすることにした。インターネットなどの活用を積極的に行い、復習の時間をとっていることが伺えた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「授業の質評価」「学習量の評価」「情報利用」「インターネットの利用」はいずれも高い評価であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「授業の質評価」「学習量の評価」「情報利用」「インターネットの利用」はいずれも高い評価であった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	考えさせることを主眼においていた。復習や調べ学習に時間を費やしていたことがわかり評価したい。インターネットの活用などをうまく利用させるなど今後の指導課題と思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	況の総括的評価としては達成されたと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	山本 佳代子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、1年生の必修科目であり、社会福祉士としての必要な価値や視点、態度等を理解するとともに、社会や地域で起きているさまざまな福祉的課題の実情や背景、当事者について理解することをねらいとする。これらの課題について、視聴覚教材等を通してさまざまな領域の実情を把握し、具体的にどのような困難があるかを理解する。また、各自の関心課題について調べ学習を行い、発表することを通し、より具体的に一人ひとりがそれらの課題について考えられるよう組み立てた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価を見ると、「知識理解」（DP1）は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」において、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」が93%で目標を達成したと考える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」において、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」が93%で目標を達成したと考える。「態度」（DP4）は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」において、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」が87%で目標をやや達成したと考える。「技能表現」（DP5）は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」において、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」が87%、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」において、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」が93%であることから目標をやや達成したと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は必修科目である。学生が達成すべき行動目標に應えるよう課題を設定し授業に取り組んだ。学生も一定の成績をおさめていること、「福祉に関する映画を何作も見て学びを深めた」などの意見もあり妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	図書館の図書、雑誌、インターネット等の利用率は高かったが、学術データベースの利用が少なかった。学術データベースに触れる機会を設けるため、次年度は図書館ガイダンスも取り入れていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	対面授業が数回あったため、遠隔授業への移行も比較的スムーズであった。遠隔授業で演習を行う場合は、事前に対面での学生同士の交流を深めておく方が良いと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	高口 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が84.6%であり、続いて「資格取得に必要である」が61.5%、それに対して「関心のある内容である」が38.5%と受講動機が低い。対人援助の仕事を目指す学生さんを対象としていたため、面談の環境や対応の仕方など、実践がイメージ出来るよう事例を豊富に取り入れながら演習を行った。特に、クライアントの置かれている立場を多角的にとらえ、自分考えを他者に伝える力を高めることを目的として授業を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目で、平均値4.1以上であり、他の評価項目も全体的に4以上である。リモート授業が中心となったため、図書館利用などにもつながらなかったため、今後このような機会が得られるよう工夫したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は「必須科目」であり、相談援助の基本となる技術を身につけるための知識の向上に併せて演習も行った。 ②DP、行動目標から見て、受講動機の低さが見られる中、学生の自己評価は全体的に高く、学習内容も妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について全体的に4以上であり、「説明は理解しやすいものであった」「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、答える機会が作られていた」の平均値は4.4以上であった。小グループによるグループワークを中心として、全体で共有する時間を十分に確保したことが評価に繋がっていると考え。 学習量の評価では、自主学習に取り組む機会を設けることが出来なかった様子がかがえ、課題を明確に示し、学生が自主的に自学に取り組むことが出来るよう工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	相談援助の基本的な技術の習得に向け、知識を「学ぶ」時間と、課題について「考え」ディスカッションする時間を多く設けたことから、学生の相談援助に対する関心が高まったと考える。しかし、授業時間以外に学習に取り組む機会につなげることが出来なかったことは課題である。以上のことから、学習のねらいや復習課題を提示するよう努めていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、相談援助演習の体系、それぞれの位置づけについて理解した上で、1 社会や地域で起きている福祉的課題や問題の実情や背景、それらを抱えた人々（当事者）、2 社会福祉士の活動領域・場・具体的支援内容・役割、3 社会福祉士としての価値・倫理、4 自己覚知・他者理解、5 コミュニケーション技術について学ぶことを目的とし、授業を構成した。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。 また新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により遠隔システムを軸に授業を展開した。 ① グループワーク等を中心に、基礎的な視点(1～5に留意)に基づき、本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。 ② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。 ③ 講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。 ④ 本講義の特性上、福祉的な問題の理解や実際のコミュニケーション技術の方法等の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、中央値4.0に対して、全体的に中央値の水準であった。（8）「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が共に平均値4.4が最も高く、（7）「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた」が平均値4.3、（4）「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、（5）「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、（6）「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値4.2であった。一方で、（1）「自分なりの目標を達成できた」と（10）「職業選択の参考になった」が共に平均値3.9であった。3「授業の質評価」は中央値のほぼ水準であった。 知識理解に関しては、相談援助に携わる上で、①福祉的課題や問題の実情の把握、②社会福祉士としての倫理と価値、③社会福祉士の活動領域・場・支援内容、④自己覚知・他者理解、⑤コミュニケーション技術に関する知識について捉え、技能表現にて捉えた知識を演習課題を通して表現する練習に取り組んだ。今後も現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤に基本的なコミュニケーション技術を理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の基礎を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、社会福祉の基礎的な知識や技術を学ぶ科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、社会福祉士がどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注察する必要があるが、2020年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。自己目標・職業選択に関する達成度が比較的低く、方法的妥当性の問題である。しかし、1年生後期の段階では今後の履修状況において学びながら、自己内省を深め自己決定をしていくものであるため、本科目を学んで今後の学生の成長を注察したい。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成できた」と「職業選択の参考になった」が共に平均値3.9と全体数値よりも低かった。本年度は、地域社会における福祉の問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をもったが、1年次生であるため具体的なイメージをもちづらかったと考えられる。科目の性質上、社会福祉における基礎的な内容をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面において社会福祉士が社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。 学生の意見として、授業での学びを深めるために、課題を提示し、その学びを整理するとともに、次年度の講義に生かしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の基礎を学ぶ位置づけであることから、相談援助における基礎的知識の形成と基礎的なコミュニケーションについては概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、2年次の相談援助演習Ⅱにおいて社会福祉士が対応する事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（2年次対象・選択）の1つであり、相談援助演習Ⅳ（3年次前期）及び相談援助演習Ⅴ（3年次後期）と連動し、4人の教員がオムニバス形式で担当している。主な教授内容は、各担当教員の専門領域（障害福祉、高齢福祉、医療福祉、地域福祉）における事例を活用し、支援内容の検討を行っている（本年度は遠隔授業で実施）。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」（63.6%）や「必修科目である」（75.8%）が見られ、学生の多くが社会福祉士取得を意識した受講であることがうかがえる。一方で、「関心のある内容である」（9.1%）は非常に低い状況であり、授業内容や展開等を工夫し、学生の関心・意欲を高める必要があると考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体の成績は平均81.7点であり、この点では教育目標を達成したと考える。各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う48.5%、かなりそうだと思う27.3%）であり、目標をある程度達成できたと言える。思考判断（DP2）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う54.5%、かなりそうだと思う24.2%）であり、目標をある程度達成できたと言える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う45.5%、かなりそうだと思う24.2%）であり、これも目標をある程度達成できたと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う45.5%、かなりそう思う18.2%）であり、目標をある程度達成できたと言える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要とする技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う45.5%、かなりそう思う18.2%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う48.5%、かなりそう思う12.1%）となり、目標をある程度達成できたと考える。 なお、授業評価アンケートにおける学生の自発的学習（授業の課題以外の学習への取り組み）について、「していない」72.7%が見られ、今					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 学生の到達度自己評価からは、教育目標をある程度達成できており、また、全体の成績は平均81.7点と高いことから、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらの学びは3年次開講の相談援助実習の展開において不可欠であり、本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	既述の通り、学生の自発的学習の状況から、学生の主体的学習態度を十分に引き出せていない現状が明らかとなった。学生の関心・興味を引き出す授業展開について、さらに各教員の教授内容や方法の現状を見直し、改善する必要があると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体成績という点では、本科目の教育目標はある程度達成されたと考える。しかし、学生の動機や関心を高め、主体的な学習態度を引き出すという点では課題が残ったと言える。本科目は、教員4名によるオムニバス形式の授業形態となっており、教員間の連携が特に重要になる。今後も授業内容や展開方法等について教員間で共有しながら、より教育効果の高い授業を目指したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	事例集を読ませ行間に隠れる当事者の思いや援助者の考え方についてを学生一人ひとりに想像させる形式を用いた。「受講動機」は「必修科目」「資格取得に必要」と答えた者が17.0多かった。医療の事例であったことで関心が薄かった者もいたと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度は必ずしも高いとは言えないが、一部ではあっても自らで学ぼうとしているのだと評価する。。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP達成度はいずれも低いものではあったが、学習の成果はあったと判断する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	レポートの評価について「基準が明らかでない」とする者がいた。今後は学生の納得の行く基準としたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	事例を深く読み考えることは今後も更に行って行きたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年次の社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目である。学生の受講動機をみると、「必修科目である」が76.2%、「資格取得に必要である」が71.4%、「関心のある内容である」は28.6%であり、本演習への関心は高くはないことがうかがえる。本科目では、福祉的課題を抱えた人々への相談援助の事例を活用し、相談援助の展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得に向けた実技指導を行う。演習ではできるだけ多くの事例を用い、「相談援助実習」で実践的に用いられる社会福祉の視点や職業倫理、援助技術を習得できるような内容となるよう工夫した。またオンラインでの演習で限界はあったものの、相談援助の実践ではチームアプローチが基本となるため、ブレイクアウトセッションの機能を活用し、できるだけグループワークを実施して、学生同士の意見交換から課題解決を導けるような演習となるよう工夫した。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次回の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は、82.9点で、中央値は80.5点であり、8割の学生が80点以上の成績を修めた。学生の学習到達度の自己評価は、「自分なりの目標を達成した」の平均値4.2、中央値4.0で、目標は達成されたと判断した。各項目をみると、知識理解が平均値4.6、中央値5.0、思考判断が平均値4.2-4.4、中央値4.0、意欲関心が平均値4.4、中央値4.0、態度が平均値4.4、中央値5.0、技能表現が平均値4.3、中央値4.0-5.0であった。またこれら全ての項目において、「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生はおらず、目標は達成されたと判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本演習は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目として位置付けられている。4. に記したように、内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 上記同様、内容的に妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では平均値4.6-4.8、中央値5.0であった。すべての項目において「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生はおらず、授業の質は問題なかったと判断した。 学習量の評価をみると、2, 3回以上の予習・復習をした学生が80-90%を占めており、自発的学習に取り組んだ学生は40%であった。課題等により予習・復習に関しては一定程度促すことができたと考えるが、次年度以降、自発的学習を促すことに努めていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。 4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、概ね授業の目標は達成されたと考えるが、次年度はさらに自発的学習をうながしていく取り組みが必要である。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、これまでの相談援助系の科目を通して学んだことを踏まえて、1いま地域で起きている福祉的課題の実情・社会的背景、2課題を抱えた人々(当事者)の状況、3社会福祉士による具体的な支援内容、4社会福祉士に求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めることを本授業の目的とした。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。なお本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、遠隔システムを軸に授業を展開した。 ① グループワーク等を中心に、基礎的な視点に基づき、本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。 ② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。 ③ 講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。 ④ 本講義の特性上、福祉的な問題の理解や実際のコミュニケーション技術の方法等の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、中央値4.0に対して、全体的に中央値の水準であった。（2）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が共に平均値4.3が最も高く、（3）「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」が平均値4.2、（4）「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、（5）「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、（6）「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値4.1であった。一方で、（1）「自分なりの目標を達成できた」は平均値3.9であった。3「授業の質評価」は中央値のほぼ水準であった。 知識理解に関しては、相談援助に携わる上で、①いま地域で起きている福祉的課題の実情・社会的背景、②課題を抱えた人々(当事者)の状況、③社会福祉士による具体的な支援内容、④社会福祉士に求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めた。今後も現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤に基本的なコミュニケーション技術を理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の基礎を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、社会福祉の基礎的な知識や技術を学ぶ科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、社会福祉士がどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。4年次の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注察する必要があるが、2020年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。自己目標・職業選択に関する達成度が比較的低く、方法的妥当性の問題である。しかし、3年生の段階では自分自身の将来の選択肢について、その専門性を高め、自己内省を深め自己決定をしていくものであるため、本科目を学んでの今後の学生の成長を注察したい。今後の講義内容にて、学生間に演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成できた」の平均値3.9と全体数値よりも低かった。本年度は、地域社会における福祉的問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をもったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、グループディスカッションが十分にできなかったことが考えられる。科目の性質上、社会福祉における知識・技術、価値、専門性をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面において社会福祉士が社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。学生の意見として、授業での学びを深めるために、課題を提示し、その学びを整理するとともに、次年度の講義に生かしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉実践の展開を学ぶ位置づけであることから、相談援助における基礎的知識の形成と事例を通してみた福祉専門職としての実践の在り方については概ね達成できたが、地域や多様な生活場面に応じた実践をする上での相談援助技術の面で課題を残した。この点は、3年次の相談援助演習Ⅴにおいて社会福祉士が対応する地域での実践事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習 V	3	後期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（3年次対象・選択）の1つであり、相談援助演習Ⅲ（2年後期）及び相談援助演習Ⅳ（3年前期）と連動し、4人の教員がオムニバス形式で担当している。主な教授内容は、各担当教員の専門領域（障害福祉、高齢福祉、医療福祉、地域福祉）における事例を活用し、支援内容の検討を行っている（本年度は遠隔で実施）。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」（57.1%）が見られ、相談援助演習Ⅲと同様に、社会福祉士取得を意識した受講がうかがえる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体の成績は平均81.6点であり、この点では教育目標を達成したと言える。各DP項目の達成状況について、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う33.3%、かなりそうだと思う30.1%）であり、目標をある程度達成できたと言える。「思考判断」（DP2）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う33.37%、かなりそうだと思う23.8%）であり、目標をやや達成できなかったと言える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う38.1%、かなりそうだと思う19.0%）であり、これも目標をやや達成できなかったと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う38.1%、かなりそうだと思う14.3%）であり、目標をやや達成できなかったと考える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う28.6%、かなりそうだと思う23.8%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う38.1%、かなりそうだと思う9.5%）であり、目標をやや達成できなかったと考える。 この他、授業評価アンケートにおける学生の自発的学習状況から、学生の関心・意欲を高め、主体的学習態度を引き出す必要があると考え					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 全体の成績は平均81.6点であった。また、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、全体として目標はやや達成されなかったが、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらは当該学年で履修する相談援助実習の展開において不可欠となるものであり、本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートでの「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは、「していない」（81.0%）が見られ、本科目において学生の主体的学習態度を十分に引き出せていない現状が明らかとなった。引き続き学生の関心・興味を引き出す授業展開を検討する必要があると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度は教育目標の達成という点で課題が残ったと考える。本科目は教員4名によるオムニバス形式の授業形態となっており、教員間の連携が特に重要になる。今後も授業内容や展開方法等について教員間で共有しながら、より教育効果の高い授業を目指したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習 V	3	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	後期実習を挟み実践場面を経験したところから援助の視点が拡がりを感じられるが、更に気づき足りない点を構造化できればと演習を進めた。受講動機で「必修」だからとするものは66.70%であったが、「資格取得に必要」と答えた者が51.9%と学生が実習などでの経験を通して援助の必要性に気づいてくれているものと評価でき「専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」と評価する者が多かった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「学びを深めたいと意欲を持つことができた」に高い評価が得られた。また、図書館利用においても評価は少なかったものの自主的な取り組み姿勢が伺えた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」「授業の質評価」いずれにおいても高い評価であった。「学習量」については僅かではあったが予復習とした物が複数名いたことは積極的に取り組もうとした姿勢が伺える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「図書館、インターネット利用」をする学生数が少ないものの、僅かでも自主的な取り組み姿勢は評価できると考える。調べることも含め、課題の提出など事前学習、事後学習に結び付ける改善を行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総じて達成されたと考える。今後においては、一人ひとりからの疑問や質問について何らかの形で関りを持ちたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習 V	3	後期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	演習系科目で遠隔授業であることで双方向のコミュニケーションで理解を深めることができたかどうかやや疑問が残る。不自由な環境なりに学生は努力していたと考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	上述したように不自由な環境の中でそれぞれがプレゼンテーションの準備発表と努力していたことから、判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的には妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	遠隔授業の制約の中、双方向の議論を展開しながら何とか授業を構成できた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね、達成できたと考えられる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅴ	3	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は3年次の社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目である。学生の受講動機をみると、「必修科目である」が84.2%、「資格取得に必要である」が57.9%、「関心のある内容である」が10.5%であり、資格取得のための履修であることがうかがえる。本演習は相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴと連続しており、学生にとって演習Ⅴは最後の相談援助演習となるため、これまで演習・実習で学んできた援助技術を総括できるよう、地域を基盤として、複数の課題を解決することが求められるような事例を用い、ソーシャルワークの理論と実践を統合化できるような内容になるよう努めた。 今年度は、昨年度と同様、地域福祉の実践としてある自治会を中心とした地域づくりを含む事例を取り上げ、コミュニティソーシャルワークの視点を学ぶ内容とした。その導入として新たに学生がイメージしづらい地域づくりについて、視聴覚教材を取り入れ、災害時のケースから地域づくりの必要性について意識づけできるようにした。また、オンラインでの演習で限界はあったが、相談援助の実践ではチームアプローチが基本となるため、ブレイクアウトセッションの機能を活用して、できるだけグループワークを通して課題解決を導けるような演習となるよう工夫した。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次回の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は81.7点、中央値は85点であった。学生の学習到達度の自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」の平均値が3.9、中央値4.0であった。これらの点から学生は概ね目標達成レベルに達していると判断した。各項目については、知識理解が平均値4.1-4.4、中央値4.0、思考判断が平均値4.1-4.2、中央値4.0、意欲関心が平均値4.1、中央値4.0、態度が平均値3.9、中央値4.0、技能表現が平均値4.0-4.2、中央値4.0であった。これらの結果より、概ね目標は達成されたと判断した。ただし、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いたため、次年度以降は各学生の達成度を判断しながら、個別の対応を丁寧に行っていくたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本演習は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目として位置付けられている。4. に記したように、内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 上記同様、内容的に妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では平均値4.4-4.6、中央値5.0であった。ただし「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。今後はどの学生にも明確に伝わるようにわかりやすい説明を心がけていきたい。 学習量の評価をみると、2, 3回以上の予習・復習をした学生は60-80%を占め、自発的学習を行った学生はおよそ50%であった。予習・復習については課題等によりある程度うながすことができたが、自発的学習については課題が残った。次年度以降、さらに自発的学習の必要性について意識づけしていく必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。 4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、概ね授業の目標は達成されたと考える。今後はどの学生にも明確に伝わるような説明を心がけていくこと、自発的学習をさらにうながしていく取組みが必要である。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習 V	3	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、これまでの相談援助演習科目を通して学んだことを踏まえて、①地域における総合的かつ包括的な援助のあり方、②地域福祉の基盤整備と開発に係る相談援助の方法、③社会福祉士による具体的な支援内容、④社会福祉士に求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めることを本授業の目的とした。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。なお本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、遠隔システムを軸に授業を展開した。 ① 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握の方法やあり方について理解し、説明できるよう指導した。 ② 地域福祉の計画について理解し、説明できるよう指導した。 ③ ネットワーキングの方法やあり方について理解し、説明できるよう指導した。 ④ 社会資源の活用・調整・開発の方法やあり方について理解し、説明できるよう指導した。 ⑤ サービスの評価の方法やあり方について理解し、説明できるよう指導した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、中央値4.0に対して、全体的に中央値の水準であった。（4）「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、（2）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、（10）「職業選択の参考になった」、が平均値4.1と最も高く、つぎに（1）「自分なりの目標を達成できた」、（3）「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」等が平均値4.3、（5）「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、（6）「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」などが平均値4.0であった。3「授業の質評価」は中央値の水準であった。 本科目は、相談援助に携わる上で、①地域における総合的かつ包括的な援助のあり方、②地域福祉の基盤整備と開発に係る相談援助の方法、③社会福祉士による具体的な支援内容、④社会福祉士に求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めることを目的に、演習課題を通して表現する練習に取り組んだ。今後も現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤により高度なコミュニケーション技術を理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門および実践の展開を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、社会福祉士に求められる知識や技術を学ぶ科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、社会福祉士がどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注察する必要があるが、2020年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。自己目標・職業選択に関する達成度が比較的低く、方法的妥当性の問題である。しかし、3年生前期の段階では今後の履修状況において学びながら、自己内省を深め自己決定をしていくものであるため、本科目を学んでの今後の学生の成長を注察したい。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容を
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、ほぼ平均値の水準であったが、本年度は、コロナウイルスの感染拡大防止の観点により、遠隔授業での実施に取り組んだ。地域社会における福祉の問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をもったが、遠隔対応であるため具体的なイメージをもちづらかったと考えられる。科目の性質上、社会福祉における基礎的な内容をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面において社会福祉士が社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう更に促していきたい。 本科目は福祉的課題を抱える当事者等の事例を取り扱うとともに、法律・制度・サービスといった広範な情報量を取り扱う性質があり、講義内容の要点を整理する必要性から、課題を通して講義の学びをまとめ、整理することに重点を置いた。本科目においても、課題の内容を整理し、次年度の講義に生かしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門および実践の展開を学ぶ位置づけであることから、ソーシャルワーカーによる地域支援の在り方（住民組織化、地域内の支援機関との連携・協働など）についての基本的な専門知識・技術の形成は概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、専門研究による各領域の指導を通して、社会福祉士が対応する事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目の一つであり、「相談援助実習(3年次)」の実施に向けた準備段階として位置づけられる。児童福祉領域の実習で求められる知識・技術を確認し習得すると同時に、実習に向けての動機づけが高まるよう、授業を展開した。例年実施している見学実習については、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から実施を見合わせたため、視聴覚教材による学習や意見交換・共有の機会を多くもち、授業での学びにとどまらず、各自が知識を深め関心を広げて様々なテーマについて自己学習に取り組むことをねらいとした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価においては、「知識・理解」（DP1）において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う50%、わりにそうだと思う36%）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う36%、わりにそうだと思う40%）、「思考・判断」（DP2）においては、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（かなりそうだと思う40%、わりにそうだと思う40%）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う36%、わりにそうだと思う50%）、「関心・意欲」（DP3）においては「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（かなりそうだと思う57%、わりにそうだと思う29%）、「態度」（DP4）においては「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う14%、わりにそうだと思う64%）、「技能表現」（DP5）においては、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う29%、わりにそうだと思う50%）「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（かなりそうだと思う7%、わりにそうだと思う71%）であった。本科目における教育目標はある程度達成できたと言えるが、「態度」「技能表現」において課題が残ったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記述したように、十分とはいえないものの一定程度の達成状況にあると考えることができ、本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は3年次の「相談援助実習」の実施に向けて展開される科目であり、実習に向けた具体的準備、実習に向けての動機づけを行い、準備学習を深めていくものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、平均値4.2～4.5となっており高い評価が得られた。授業に参加するための準備や復習を1度も行わなかった学生がそれぞれ50%であり、その理由として「授業内容だけで十分学べたから」「授業を振り返るだけで十分だと思った」などの記述がみられたが、春休み期間中にはすべての学生が自己学習に取り組みその成果を提出したことから、自発的学習に主体的に取り組む姿勢を培うことに一定の成果があったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	次年度の「相談援助実習」に向けて、必要な知識の習得、主体的に学びを深めようとする姿勢の涵養という点からは、本科目における教育目標はある程度達成できたと考えるが、DPにおける「態度」「技能表現」において課題が残った。さらなる改善、工夫に取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（2年次対象・通年）の1つであり、相談援助実習（3年次）の実施に向けた準備学習として位置づけられる。学生自身も本科目のこうした位置づけを認識していると思われ、授業評価アンケートの受講動機は、「資格取得に必要なである」（66.7%）とやや高い割合となっている。 本科目では、高齢者福祉領域の実習指導を担当した。既述の通り、本科目が実習に向けた準備学習であることから、実習領域・施設や利用者理解を深めることを目的に、遠隔による調べ学習を中心とした授業を展開した。また、学生を少人数のグループに分け、調べ学習の結果を共有させるなど、学生間の相互交流により実習への動機が高まるよう意識した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う33.3%、かなりそうだと思う55.5%）であり、目標を達成したと言える。「思考判断」（DP2）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う66.6%、かなりそうだと思う22.2%）となっており、目標を達成できたと言える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う44.4%、かなりそうだと思う33.3%）であり、目標をある程度達成できたと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う55.5%、かなりそうだと思う22.2%）となっており、これも目標をある程度達成できたと言える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う44.4%、かなりそうだと思う22.2%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う66.6%、かなりそうだと思う22.2%）となっており、目標はある程度達成されたと考える。 以上、DP項目の達成度からは、総じて本科目の教育目標は、ある程度達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、全体として教育目標を「ある程度達成」しており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は3年次に実施する相談援助実習の準備学習として、実習に必要な知識・技術や態度を修得するものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本年度は遠隔授業でありながらも、教育目標をある程度達成できた。今後も学生個々の理解度や学習の進捗状況の把握を十分に行い、授業を展開していきたい。また、対面授業の開始後は、図書館を積極的に利用するなど、学生の主体的な学習態度の涵養と実習への動機づけに取り組みたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	既述の通り、本科目における教育目標はある程度達成された。本科目は、実習への準備・事前学習としての位置づけにあり、実習への動機や実習態度に直接関わってくる。今後も引き続き学生個々の状況を踏まえながら、授業改善に取り組みたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	実習の領域を選択しているため「必修科目」「資格取得」の回答が共に100%、50%であった。実習先やそこで行われていることの具体的なイメージが掴めていないため、現場でのことを多く話し、何をするのかを理解できるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が「到達度自己評価」各項目の③以上の回答であり教育目標は達成されたと考える。また、インターネットの利用も50%ではあるが検索をして調べ学習をしていることがわかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機については「資格取得に必要」は50%であった。進路についてまだ決めかねているものと判断する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」において「学生が参加する機会が作られていた」に回答する者が多くいた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	実習先についてのイメージが出来ないことを思うあまりに経験を基にした講義が多くなり自主的な取り組みをさせることが少なかったと反省する。今後は、個人若しくはグループで自主的な取り組みを更にさせるようにしたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目であり、3年次の「相談援助実習」に向けた準備学習を行う科目として位置づけられる。授業は、2年次までに修得した相談援助にかかわる基礎的な知識・技術を障害者領域に特化して再度復習、整理し直し、加えて社会福祉士を目指すモチベーションを確認して、実習に向けた自己の準備性や対人援助職への適性を確認していくことを目標にして展開した。受講動機を見てみると、「必修科目である」が63.0%、「資格取得に必要である」が88.9%を占め、「関心のある内容である」は18.5%であった。必ずしも社会福祉士取得に意欲の高い学生のみが受講している訳ではないことを踏まえ、将来の進路を見定めていくことも目標に加えて、できるだけ実習やソーシャルワーカーの仕事をイメージ化できるよう、視聴覚教材等も用いながら授業を展開した。 前年度と同様、今年度も障害者支援の現場で実際に用いられている、視覚的構造化や認知行動療法などの技術を実践的に学べる演習を取り入れた。また今年度はリスクマネジメントに関しても、現場で用いられているKYTのグループワークを取り入れた。オンラインでの授業で限界はあったが、ソーシャルワークの実践ではチームアプローチが基本となるため、ブレイクアウトセッションの機能を活用して、できるだけグループワークを実施できるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は83.8点、中央値85点で十分な目標レベルに達していた。学生の学習達成度の自己評価においては、「自分なりの目標を達成した」の項目が、平均値4.2、中央値4.0であった。各項目をみると、知識理解が平均値4.3-4.5、中央値5.0、思考判断が平均値4.3-4.4、中央値4.0-5.0、意欲関心が平均値4.3、中央値4.0、態度が平均値4.2、中央値4.0、技能表現が平均値4.2-4.3、中央値4.0であった。このことから学生の自己評価においても目標は達成されたと考える。ただし、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の項目において「全くそうでないと思う」と回答した学生が1名、「自分なりの目標を達成した」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「職業選択の参考になった」の各項目において「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名ずついた。次年度以降は各学生の達成度を判断しながら、個別の対応を丁寧に行っていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」という社会福祉実践の展開につなぐ科目として位置付けられている。学生の資格取得へのモチベーションに課題はあるものの、「職業選択の参考になった」の平均値4.2、中央値4.0という評価をみると、本科目を通して学生が進路を定めていくことに貢献できた点で内容的妥当性はあったと考えられる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 4. に記したように成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価の回答をみると、平均値4.1-4.3、中央値4.0-5.0であった。ただし「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の項目に「全くそうでないと思う」と回答した学生が1名、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名、「説明は理解しやすいものであった」の項目に「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の各項目に「少しそうでないと思う」と回答した学生が2名ずついた。オンライン授業での説明方法や提示の仕方が不十分であったことが考えられる。次年度以降どの学生にも明確に伝わるようなわかりやすい説明などを心がけていきたい。 学習量の評価をしてみると、2, 3回以上の予習を行った学生が70%、復習を行った学生が60%程度であり、自発的学習を行った学生が50%程度であった。課題等への取り組みを通して、一定の学生に対しては予習・復習を促すことができたと考える。今後は資格取得への関心をさらに高めることで、自発的な学習を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」という社会福祉実践の展開につなぐ科目として位置付けられている。本科目を通して「職業選択の参考になった」の評価から、学生が進路を定めていくことに貢献できたと考える。今後は学生全員に伝わるような方法で説明等を行って、学生が目標達成できるようにし、資格取得への関心をさらに高めることで、自発的な学習を促していきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して展開される科目である。授業は実習前指導、実習配属中の指導、事後指導からなり、事前指導ではソーシャルワークの視点形成、事後指導ではスーパービジョンを通じた実践と理論との統合化を目標に展開した。学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」が62.5%、「資格取得に必要である」が87.5%、「関心のある内容である」は25.0%となっており、多くの学生は資格取得のための履修である。 今年度はコロナ禍の下での実習となり、実習延期や中止等への対応が余儀なくされ、実習担当教員間や実習先と密に連携を図りながら調整を行った。またその影響で学生へ不利が生じないよう、各学生の実習の実施状況に応じた個別の対応を行い、授業を展開した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の最終的な成績の平均値は82.7点、中央値84点で、十分なレベルの達成度であったと考える。学生の学習達成度の自己評価においては、「自分なりの目標を達成した」が平均値4.3、中央値4.0であった。各項目については、知識理解が平均値4.6、中央値5.0、思考判断が平均値4.5-4.6、中央値4.5-5.0、意欲関心が平均値4.6、中央値5.0、態度が平均値4.5、中央値5.0、技能表現が平均値4.4、中央値4.5であった。全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はおらず、目標は達成されたと判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して展開される科目として位置付けられている。4. に記載したような成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 4. に記したように成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価については、平均値4.3-4.6、中央値4.5-5.0であった。ただし「説明は理解しやすいものであった」の項目において「少しそうでない」と回答した学生が1名いたため、次年度以降はどの学生にも明確に伝わるような説明を心がけていきたい。また学生の意見の中に教員の不適切な対応があったとの意見があり、この点に関しても次年度以降、学生に丁寧な対応を心がけていきたい。 学習量の評価については、実習前後の課題も多いためと考えられるが、予習・復習を全くしなかった学生はおらず、学生の学習を一定程度うながすことができたと考える。また全く自発的学習をしなかった学生は25.0%にとどまり、実習の経験をもとに、自発的学習を促すことが一定程度できたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して展開される科目である。4. に記したように成績および学習達成度の自己評価、授業の質評価から、概ね授業の目標は達成されたと考えられる。次年度以降は、6. で示したように、すべての学生に明確に伝わるような説明など、丁寧な対応を心がけていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、社会福祉士指定科目（3年次・通年）の1つであり、相談援助実習（3年次）の事前及び事後指導を行うものである。高齢者福祉領域を担当し、実習前指導では実習関連書類の作成指導や実習現場で必要となる知識・技術の教授を通じて実習への動機を高めた。実習後指導では個別面談を通して実習で得た学びや気づきを深めさせた。また、実習期間中は巡回訪問を行い、個別指導及び実習指導者への面談を通して、実習状況の確認を行った。 ※本年度はすべて遠隔授業で実施した。また、実習期間・施設等について大幅な変更を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う33.3%、かなりそうだと思う40.0%）となっており、目標をある程度達成したと言える。「思考判断」（DP2）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う26.7%、かなりそうだと思う33.3%）となっており、目標をある程度達成できたと言える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う33.3%、かなりそうだと思う33.3%）であり、目標をある程度達成できたと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う40.0%、かなりそうだと思う33.3%）となっており、これも目標をある程度達成したと言える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う33.3%、かなりそうだと思う33.3%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う26.7%、かなりそうだと思う26.7%）となっており、目標達成はどちらかとも言えない状況であった。 以上、本科目の教育目標の達成については、各DP項目の達成度から全体として「ある程度達成できた」と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、DP項目の達成は全体として「ある程度達成された」となっており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は相談援助実習の実施に向けた事務手続きや動機づけ、実習で得た学びの整理・振り返りを行うものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習前指導では、実習実施に向けた関連文書の作成、実習で必要となる知識・技術の獲得、動機づけ等を行っている。こうした過程において、学生には主体的学習態度が求められるが、授業評価アンケートの「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは、「していない」（73.3%）が示された。本年度は遠隔授業による指導であったが、こうした状況下でいかに学生の学習意欲を引き出すか、改めて課題が示されたと言える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標の達成はある程度達成されたと見えるが、一方で実習への動機づけや主体的学習態度を引き出す点では課題が残った（この点は既述の通り、遠隔授業による影響も考えられた）。相談援助実習指導Ⅰと同様に、今後は本科目で修得した知識・技術が実際の実習現場でどのように役立ったか/役に立たなかったか、実習後指導（個別面談、発表、レポート）が知識・技術の修得に十分寄与したかといった点での評価も必要と考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必修科目である」が57.1%、「資格取得に必要である」が100%であったが、医療における社会的な問題に困る人々の生活課題を解決調整する意味について感じ、考えることを学生らに求めたことから、実習での経験で随分と成長したと評価できる。 ①医療機関での実習に必要と思われる知識と技術について参考資料の提示と講義を行った。 ②配属については、コロナ禍で3年時に全員が実習に出れず、不安を持たせる結果になった。実習は4年時に持ち越す学生がいた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①「到達度自己評価」「授業の質評価」の項目は、平均値が3.9以上であり教育目標は達成されたと考える。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が4.0以上を得ている点は学生自らの成長から伺える。 ②図書館の利用が少なく、インターネットの利用は高い傾向にある主体的に調べる取り組みは評価できる。 配属先の情報については、学生各自で過去の先輩らが同じ施設で実習した時の資料を参考にしたり、インターネットなどを活用し調べさせるように指導した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	医療機関は実習先として他の領域と同じ扱いではあるが、生命を扱う場としての特殊性があると説明し、受験資格を得る為の実習態度であれば他職種の実習生と比較され注意、指摘を受けることになると注意をし緊張感と積極性持つよう指導した。そのことが「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が4.3と高く「到達度自己評価」に表れDPは達成できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習先としての医療機関は、他の領域と同じ扱いではあるが、生命を扱う場としての特殊性があると説明し、受験資格を得る為の実習では、他職種の実習生と比較され注意、指摘を受けると注意を喚起し緊張感と積極性持つよう指導した。そのことが「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.4と高く「到達度自己評価」に表れDPは達成できたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	実習先としての医療機関は、他の領域と同じ扱いではあるが、生命を扱う場としての特殊性があると説明し、受験資格を得る為の実習では、他職種の実習生と比較され注意、指摘を受けると注意を喚起し緊張感と積極性持つよう指導した。そのことが「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.4と高く「到達度自己評価」に表れDPは達成できたと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神障害者の生活支援システム	2	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者など)の生活支援の意義と特徴及びそれに関する制度と施策についての理解を深めるとともに、さまざまな活動領域における精神保健福祉士の相談援助活動について理解することを目的に本授業を構成した。本年度は新型コロナウイルス感染症感染症拡大防止の観点により、遠隔システムを軸に実践事例・福祉教材などを用いたり、社会的な課題について考察することで、精神障害者の生活支援システムについての知識と支援内容の基本的な理解を深めた。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。 ① 講話法を中心とした講義の展開が主であった。地域で生活するメンタルヘルスの課題を抱える当事者及び家族、支援者等に関する横断的な理解が求められる。そのため3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。 ② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。 ③ これまでの講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。 ④ 本講義の特性上、地域で生活するメンタルヘルスの課題を抱える当事者、家族、支援者、各種法制度等の広範な理解が求められるため、
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、74点であり、再試対象は0名であった。本年度は遠隔授業中心の講義を実施したものの、全員が標準的レベル及び理想的レベルに概ね達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、中央値4.0に対して、（2）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と（3）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が平均値4.4が一番高く、次に（6）（5）（1）の順であった。3「授業の質評価」は中央値の水準であった。 知識理解に関しては、地域福祉の観点からメンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える知識について問うものである。精神保健福祉に係る法制度、サービスについては、広範な情報量となるため、現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士・精神保健福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、メンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える法律、制度、サービスを理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理したり、グループ討議等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「精神保健福祉関係科目」では、精神保健福祉の専門を学ぶ位置づけであり、選択科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目はメンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える支援の在り方、諸制度やサービスの仕組み等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による法制度・サービスの動向を注察する必要があるが、2020年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から表現技能に関する達成度が比較的低かったが、メンタルヘルスの課題を抱える当事者及び家族への支援や地域生活支援上の諸制度・サービスの表現の機会が少なかった点では方法的妥当性の問題である。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題(具体的な事例)を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.4と全体数値よりも低かった。本講義は、講義形式により、メンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える知識について学ぶ機会を中心においたため、事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会が少なかった。次年度に向けて関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、事例を事前提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「精神保健福祉関係科目」では、精神保健福祉の専門を学ぶ位置づけであることから、精神障害者に対する地域支援に求められる基礎的知識の形成については概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、3年次の精神保健福祉の関連科目(演習活動や現場での実習体験等)を通して、学生自身の主体的な学びを促し、精神保健福祉士に求められる倫理と価値、知識や技術を学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り、学生自身の考える時間をとること、学生が体験的に捉えた学びを基に、コミュニケーションを図ることで、学生自身の学びを深めていきたい。そして、主体的な学びを深めていくためには、復習課題を意識的に提示する。適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	高口 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	1	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が28.6%であり、「資格取得に必要である」が95.2%、「関心のある内容である」が61.9%、「単位数を確保する」が28.6%であった。精神保健福祉士を目指すものにとって基本的な知識を得る教科であり、今後の進路に向けて学習意欲が見受けられる。授業では精神保健福祉に関する具体的イメージが持てるよう事例を豊富に取り入れながら、相談援助職における基本的なスキルとなる要約や記録の機会を多く設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「専門分野のさまざまな課題を検討する力をえることができた」平均値が4以上と、精神保健福祉に関する理解を高めることができた。「専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」「職業選択の参考になった」の平均値4以上という評価からも、本教科を通して、精神保健福祉に関する関心を高めることができた様子が伺える。一方「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値は3.5と全体を見ると低めであった。これは授業内容が記録や要約、知識の習得を中心に授業を進めていたためであると考え。今後、学生が主体的に学習に取り組めるよう、問いや考察を深める機会を取り入れたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は資格取得に必要な「選択科目」であり、精神保健福祉に関する基盤となる知識を高める教科である。学習達成度の自己評価からみても、DP、CPともに内容は妥当であると考え
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について「評価基準が明らかである」、「学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4以上であり、授業内容は比較的に知識や理解を促す内容となっている。一方で「授業中に話し合う、発表する機会」の平均値は3.6であった。今後は、考察や意見交換の時間を意識的に設けたい。学習量の評価では、積極的に記録を取り入れたこともあり、期待以上に予習復習に取り組んでいる様子が伺える。更に理解を深めるため、学生が自主的に調べて考察することが出来るよう工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉の基本的知識を「学ぶ」時間と、学んだことを要約し記録する時間を多く設けたことから、学生の知識向上につながったと考える。その結果、精神保健福祉に関する関心の高まりや、「この講義を通して精神コースにしようと決めた」など進路選択のきっかけとなっている。さらに、ディスカッションの時間などを積極的に取り入れ、自身の考えを深める機会を設けたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	高口 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が63.3%であり、「資格取得に必要である」が86.7%と高い数値であり、一方「関心のある内容である」が13.3%と低い数値となっている。精神保健福祉士を目指すものにとってメンタルヘルスにおけるリハビリテーションなどの知識を得る教科であるが、関心が極端に低かった。実践がイメージ出来るような事例を豊富に取り入れながら、関心を高め実践で役立つよう意見交換の時間なども設けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	C P、カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は資格取得に必要な「選択科目」であり、精神保健福祉に関する援助の基盤となる知識を高める教科である。学生の到達度自己評価では全体的に4前後であり、DP、C Pともに内容は妥当であると考え。 学ぼうとしている「技術」を身に着けるの評価が3.6とやや低めであったが、本教科は基礎的な知識の修得を主な目的とし、技術は演習授業とリンクさせて修得を目指す。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は資格取得に必要な「選択科目」であり、精神保健福祉に関する援助の基盤となる知識を高める教科である。学習到達度の自己評価は全体的に4程度であり、学生の受講動機からすると授業を通して理解が深まっている様子がうかがえる。DP、CPともに内容は妥当であると考え。学ぼうとしている「技術」を身に着けるの評価が3.6とやや低めであったが、本教科は基礎的な知識の修得を主な目的とし、技術は演習授業とリンクさせて修得を目指す。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について「評価基準が明らかである」の平均値は4.1、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.1、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4、「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均値は4、「口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、答える機会が作られていた」の平均値は4.1であった。以上のことから、考察や意見交換の時間を意識的に設けたい。また、学習量の評価では、自主学習に取り組む機会を設けることが出来なかった様子がうかがえた。授業前後の学習にも取り組んでいる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉の基本的知識を「学ぶ」時間と、学んだことを要約し記録する時間を多く設けたことから、学生の知識向上につながったと考える。、学習のねらいや復習課題を明確に提示し、精神保健福祉に関する理解と関心が高まるよう努めていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	三木 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神疾患とその治療	2	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2022年度にはWHOが定める疾患分類であるICDが10版から11版に改定されることもあり、精神疾患の分野については現在大きな変化が生じている。こうした状況をなるべく反映した授業を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない	どちらともいえない	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	多くの時間がオンラインとなったことにより情報の伝達に限界があったものの、レポート等の内容からある程度の目標には到達したと判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	今後の資格取得、就職において必要な項目は満たしていると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	対面授業時の板書には工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	リモート授業のサポート体制がしっかりしていたため、制限が大きかった中でも基本的な項目についての学習は支障なく行えたと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、受講学生は、全員が精神保健福祉士レーンである。精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、1年生時や2年生前期において受講済みの精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更には精神保健福祉士レーンで初めての演習グループであることも十分に考慮をして講義を展開させた。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、北九州市における精神保健福祉社会資源マップの作成をグループ化して行うことを事前に知らせ準備させた。毎回講義のレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。 なお、今年度に関しては全てweb講義での対応となり、学生の反応を直接確認することはできなかったが、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、初めての精神グループでの演習で、仲間との理解も深まったし精神に進んでよかったと思ったや、次年度からも精神保健福祉関連の講義が楽しみです等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士のレーン選択の学生であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものを感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が、他の項目と比較すると低かった。その場面設定を行い、実際にグループ化して社会資源マップを作成する作業を行った。2年生になって初めての自分の専攻の演習であったので、なかなか慣れていないということもあったかもしれないが、可能な限り今以上に展開できるように、次年度以降も工夫をしていきたい。また、昨年度は、調査の作業を課したのでインターネット上での検索は多く、残念ながら学術データベースの活用が殆どなされてなかった。今年度は利用の仕方からのインフォメーションを行い、積極的に活用できるよう指導をした。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、忙しかったという回答があった。時間の作り方に関しても、引き続き具体的な方法を提示するなどの指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。1年次や2年前期での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、初めての専攻のグループであるので、前半部分は相談援助の基本的なことの復讐も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は、実際に援助支援をする時に必要なものに理解を深めさせるために、地元の精神保健福祉の社会資源マップの作成をグループ化して分担で課した。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、ロールプレイを取り入れ実際に演じてみるという演習を行って、良い意識づけはできたと思う。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めることができたと感じられる。次年度も引き続き、予習復習、学術データベースの利用方法に関しても、具体的な指示を出すことにしたい。webではあったが、対面講義と同等の達成状況であった感じられる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	高口 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅱ	3	三期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が33.3%であり、続いて「資格取得に必要である」が66.7%、一方で「関心のある内容である」が0%と、受講動機は極端に低い。精神保健福祉士を目指すうえで必要な知識を得て、人に伝える、意見を交換しながら理解を深めるといった交互交流を主とした演習を行った。重ねて、実践場面を想定した演習では、小グループでの取り組みを導入し気づき合いを促し、関心が高まるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目で、すべての項目において平均値4以上である。特に学びを深めたいという項目は4.3であり、学習意欲の向上が図られている。全体からすると技術を高められたという評価がやや低いため、さらにロールプレイなどを取り入れていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は精神保健福祉士を目指すうえでの「必須科目」であり、相談援助の基本となる技術を身につけるための科目であるため内容は妥当であると考え。グループワークを中心としているが、安心して積極的に発言出来る環境や雰囲気になるよう促したい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について全体的に4.3と高い数値であるが、学生の質問を受付答える機会のみ4とやや低い評価であった。リモート授業の中で主として学生同士のグループワークの中で出てきた意見や質問に対応していたが、個別に質問を受付ける機会を設けながら、今後も学生が自主的に自学に取り組むことが出来るよう工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士としての基本的な知識と技術の習得に向け、必要な情報を調べてまとめる、誰かに伝える、テーマについて考えディスカッションする時間を多く設けたことから、学生の精神保健福祉相談援助に対する理解や関心が高まったと考える。さらに具体的場面を想定した演習などを取り入れ、実践力の向上に努めていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	通年	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を、また、シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。更には、実習指導の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件等々を詳細に説明した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。 なお、今年度に関しては殆どがweb講義での対応となり、学生の反応を直接確認することはできなかったが、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の資格取得に課せられた精神保健福祉援助実習Ⅰ（医療機関実習）の事前事後指導の科目である。3年次の医療機関実習での実習に向けた各自の目標設定や課題の確認等しながら医療機関実習に臨むことができている。Webでの実習ではあったが、終了後のグループワークの中でも、Webの実習を振り返ることができており、更には次年度の実習Ⅱの目標も、ある程度立てられるようになっていく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	3年次の精神保健福祉援助実習Ⅰに対しての、事前事後指導という位置づけである。精神保健福祉援助実習Ⅰを通して学んだことを、個別体験から総合的包括的な理解へと広がるための科目設定である。従って、内容的には妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていたの項目と、質問の受付答える機会の提供の項目については高得点だった。できるだけ主体的参加によるグループワークが展開できるような、演習形式を意識して行っていたための評価であると考えている。実習事前事後指導については、Web実習であったため、Web機構を十分に利用して情報収集や振り返りをさせ、各自の実習目的を明確化することを進めていった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士を目指す学生のみが受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。実習に向けての職業倫理や行動規範などにより時間をかけるとともに、授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができたのではないと思われる。次年度も、引き続きこの点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。Webでの講義中心であったが、対面と同様の効果はあったと感じられる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学概論Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	福祉の領域の専門職を目指す学生が、総合的な人間理解の基盤を確立するための1つの学問領域として、心のメカニズムを究明する心理学を学ぶことは極めて重要であると位置づけている。内容的には理論的要素の強い学問領域であり、特に脳の働きと人間の行動との関連に重点が置かれているために、文系の学生には理解しにくい学問と言えるであろう。また高校までに生物を学んできたかどうかで、学生間の学修準備性は大きく異なると考えられた。従って第1回目の講義において「生物を学んだことがあるか」について口頭で問うたところ、半数以上の学生が生物を学んできていないようであった。そのため脳の働きを説明する前に、ニューロンの役割など基本的なところを細かく解説し、対応した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本試験の成績の平均値は79.12(±10.81)であり、昨年度(70.99(±17.01))と比べて上昇がみられた。オンラインによる授業を行い、試験もオンライン上で行ったため、持ち込み可としたことなどが影響したものと思われる。学生による到達度評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」4.3、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」4.0、「自分が学ぼうとしているさまざまな課題を検討する力を得ることができた」4.1、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」4.2、「職業選択の参考になった」4.0といった項目において高い値を示していたため、専門分野を学ぶための基礎的学習であり、それらが役に立たと認識しているものと思われた。学習量については、対面授業の時に比べると増加傾向にあったことなどから、コロナ禍で授業が思うように受けられない体験を通して、日々の学びに意味を見つけやすい状況にあったことが考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉学を学ぶ上での基礎科目として位置づけられており、学科のCPとも合致する科目であるといえるであろう。学生も「必修科目である(実際には選択科目であるが)」、「資格取得に必要である」、「関心のある内容である」と考えている者も多いため、内容的妥当性があるものとする。一方DP及び行動目標から検討すると、昨年度に知識理解を向上させるように復習を促していく事を課題として提示したが、復習を実行したり自発的に学習した者が多く見られたため、ほとんどの学生にとって方法論的妥当性もあったものと評価できる。またこのことが、全体の平均値の向上につながったものと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「説明は理解しやすいものであった」という項目の平均値が4.0と比較的高かったことから、講義内容そのものに対する評価はそれほど悪くなかったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	例年に比べ、成績の平均値が上昇したこと、予習復習の機会が増えたことなどを考えると、おおむね目標は達成できたものと考えられる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達心理学Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本学科が養成する資格を取得する上で、胎児期～児童期までの発達過程について心理学的観点から理解することは極めて重要であると位置づけているが、受講者数は学科の半分ほどであるのは残念な事であった。内容的には理論的要素の強い学問領域ではあるが、自らの発達を振り返ることができるためイメージしやすいところがあったと考えられる。またできる限り、具体的な事例などを紹介することでイメージの共有を図った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は89.51(±9.75)と、昨年度(81.03(±10.21))に比べ上昇した。学生による到達度評価が4.1と高めであり、知識の確認・修正・獲得の領域も4.4と高かった。また昨年度に比べ、恒常的に復習を実行している者が増加したこと、受講動機に「関心のある内容である」と答えた学生が83.3%と、高かったことも成績の平均値の上昇に関与していると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目の内容は福祉の専門職(特に児童・障害児・教職・保育)にとって必須の知識であり、学科のCPとは合致していると考えられる。学生の受講動機としては「資格取得に必要である」「関心のある内容である」がそれぞれ33.3%、83.3%と多くを占めており、この点からは内容的妥当性があるものとする。一方DPは標準的水準以上の達成をしていると評価している。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においていずれの項目も3.8-4.4と、昨年度と比べ上昇したと理解している。授業も試験もオンラインで実施したが、それに伴い予習、復習をする頻度の高い学生が増えた。コロナ禍において、学生の学習への希求心が高まったこととも関係していると思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生自身の到達度評価及び成績も概ね高い値を示していると考えられるため、本科目においての授業構成・展開でさほど問題はないと思われる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
障害者心理学	2	後期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	第1回目の授業において、障害と障害のある人に関する知識を把握するために、学生に小レポート（「障害とは？」）を課した。その結果、障害の概念や障害のある人の心理特性・生活に関するイメージが十分にできていない学生も多かったため、それぞれの障害についての定義、及び概念の整理を重点的に行った。また障害があることによって生じる生活上の困難、発達上の諸問題について事例を挙げながら説明し、イメージの具体化を図った。さらに障害者を家族に迎える際、家族と彼らの生活にどのような影響があるのかについて解説することを通して、障害者への包括的な支援の在り方についての視座が得られるよう努力した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	第1回目の授業において、障害と障害のある人に関する知識を把握するために、学生に小レポート（「障害とは？」）を課した。その結果、障害の概念や障害のある人の心理特性・生活に関するイメージが十分にできていない学生も多かったため、それぞれの障害についての定義、及び概念の整理を重点的に行った。また障害があることによって生じる生活上の困難、発達上の諸問題について事例を挙げながら説明し、イメージの具体化を図った。さらに障害者を家族に迎える際、家族と彼らの生活にどのような影響があるのかについて解説することを通して、障害					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	成績の平均値は92.95（±9.02）であった。ほとんどオンラインで授業を行ったこと、試験もオンラインであったため持ち込み可としたことなどにより昨年度の平均値66.11（±7.80）より全体の成績が大幅に上昇した。「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」4.2、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」4.1などの項目で高い評価を得たことから、障害領域への興味が広がったものと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においていずれの項目も3.5-4.5と、昨年度と比べ大幅に上昇したと理解している。特に「説明は理解しやすいものであった」という項目では、4.3と高い値を得た。また5で述べたように、学生の到達度自己評価から、受講により障害者領域への関心が高まったことに寄与したものと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績の平均値が高く、多くの学生が授業内容について「理解しやすい」と評価(4.5)していたため、今後も障害のある人の生活や発達について理解を深め、知識の定着化を図ってもらいたいと考える。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床心理学概論	1	後期	選択	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講生は、本講義において初めて臨床心理学について本格的に学習する。そのため、授業内容としては、現在の臨床心理学領域において中心となっている心理療法や心理検査について幅広く取扱うこととした。また、受講生にとってなじみのない用語や抽象的概念について解説を行うことも多いため、具体例を挙げたり、学生の質問に答える時間を設けるなどして受講生の理解が深まるよう心掛けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本講義の最終的な成績としては、平均値88点（標準偏差 7.19点）であった。この結果から、概ねの学生が授業であらたに知識理解（DP1）を身に着けたと評価した。また授業評価アンケートにおける「到達度自己評価」の「（2）知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」に関し、平均点が4.3点だったことから上記のように評価した。 意欲関心（DP3）については、授業評価アンケート「学習量の評価」において、授業の予習・復習の回数が学生によるばらつきがあったことや、「図書館利用」のインターネット等の利用者が少なかったことから「どちらともいえない」と評価した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門的知識や技術を身に着けるうえで、基礎的な知識となることから、1年次で開講は妥当である。また、受講学生は、1年前期の心理学概論において、限定的な内容であるものの、臨床心理学領域の事柄について学習していることで、1年後期での臨床心理学概論での知識の定着が図りやすいように感じられた。そのため1年次の後期での開講は妥当と考えられた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業では復習や学生の質問への回答を丁寧に行うことを心がけた。授業中盤から遠隔授業に変更になったことや、14回目での試験実施への変更などから、授業進度が予定よりも遅れてしまい、後半は授業ペースをあげざるを得なかった。次年度は復習等に割く時間の配分に配慮し、授業で扱うテーマの選別についても行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	上記で示したように授業での時間配分に配慮したい。また、受講学生が関心をもったテーマについて自主的な学習が出来るよう推薦図書を紹介なども随時行っていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
微生物学	1	後期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①例年は教科書を中心に講義を行い、パワーポイントを使い補足説明を行うという方法を取っていた。しかし、今年度は、オンライン講義ということで、学生の学びの習熟度をあげるために、最初にパワーポイントを使い講義の要点を説明し、振り返りに教科書を使うという形式をとった。 ②パワーポイントで作成した資料は、見やすいことを第一に考え準備した。スライドには、振り返りの際に教科書と連動できるよう該当する教科書のページ番号を入れた。 ③講義進行に合わせポイントの整理を配布し、講義の振り返りを早期からするよう促した。また、小テストは例年1回実施していたが、より学生に復習する機会を設ける意味で回数を2回に増やした。 ④特に、実戦に役立つような知識の習得を目指し、基礎的な知識の習得の後に学校や医療福祉現場での感染症対策・対応について講義を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は78点（±9.0）だった。82.5%の学生が標準レベル（70点以上）に達しており、理想レベル（80点以上）に達した学生は45%だった。小テストの平均得点は14/20点（±4.0）であった。 ②自由記述から「小テストの勉強をした」「ノートにまとめ後で見直しできるようにした」「授業内容を詳しく調べまとめた」などの記述があり、主体的に学習に取り組む学生の姿勢が見られた。 ③学生の自己点検評価値は、「知識を確認、新たに得ることができた4.2」、「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた4.1」「専門分野について学びたいと意欲をもつことができた4.2」と、知識の修得と課題を検討する力の評価値は、昨年とほぼ同程度を示した。学習量については、1回に30分以上の予・復習に4、5回以上かけた学生が67.5～77.5%おり、昨年に比較し学生の学習量は3倍ほど増えた。一方、学習量0回の学生は昨年度が7～10%、今年度は0～1%だった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 専門教育科目で養護教諭取得免許取得に必要な必須科目である。将来の就職に向けて福祉・医療・学校現場に必要な感染症の基礎知識を身につけるうえで、CPの位置付けからみた講義内容は妥当であると考え。学生の到達度自己評価「職業選択の参考になった4.3」からも講義内容は適切だったと思われる。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 養護教諭採用試験や福祉・医療現場で役立つ知識の修得を目指しており、「養護教諭を目指しており、実際に現場で役立つ知識から普段の日常生活で活かせる知識まで幅広く知識を得られた」との学生の自由記述があり、学生の知識到達度からみても内容は妥当であったと考え。 ③まとめ 以上、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の授業の質評価は、「テストなどの評価基準の明確さ4.1、学習範囲の明確さ4.2、説明の理解しやすさ4.1」、「質問を受け、答える機会を作る4.0」と、いずれも評価値は昨年と同様であった。オンライン講義ではあったが、授業工夫により到達度自己評価や授業の質評価が昨年度と同様で、次年度も今年度の授業工夫を継続し行う。学生の意見には、「授業がわかりやすく、説明が的確で丁寧だった」「学ぶにあたり不安だったが理解しやすく学ぶことできた」「多くのことが学べ関心が深まった」「たくさんのウイルスについて学べた」などの意見があった。 ②今年度は初めてのオンライン講義であった。対面講義とは異なり学生に講義内容を十分に理解してもらうことができたか不安であったが、以外にも学生の学習量は増え、主体的に学習に取り組んだ様子が窺えた。今年度の授業工夫は、対面講義と同様に概ね良い結果をもたらした。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度はオンライン講義という初めての講義スタイルではあったが、専門教育科目や教員免許資格に関わる科目として、学生の知識到達度達成状況から基礎的知識を習得するという目標は、概ね達成できたと思われる。次年度もオンラインでの講義が続くため、今年度の講義における授業の取り組みを継続し行なう。また、講義内容がかなり多いため質問時間を講義途中と講義最後に設け、学生との対話を通し学生の理解を深めるつもりである。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	吉積 秀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学	2	後期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初年度にあたり、最初に受講動機のアンケートを行った。「資格取得したいから」、「養護教諭にあこがれていて」と答える学生がほとんどで、「栄養学の基礎」「児童生徒の健康を支えていくために必要な栄養の知識について学びたい」「アレルギーと食」など健康と食事(栄養素)について学びたいと意欲的な解答だった。 授業計画はアンケートに添えるように計画する。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	概ね80点以上とってほしいと試験を作成した。平均値は80点だった。標準レベルに達していた。ただ、レポートに関する問題はこちらの意図する内容とかなりの隔りがある学生がいた。対面試験であれば、解答している学生を見る事ができ、レポートの意図とする点の説明等できたのにと、残念であった。今年度のレポート、課題を含めた最終的な成績は平均81点あり、再試験対象者は0名であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価をみると、まず、提出している学生の少ない結果となっている。自分なりの目標が達成できたと解答した学生の「かなりそうだと思う」「わりにそうそうだと思う」と解答した学生が91%との結果となった一方、やはり、遠隔授業ということも一因と考えられるが、コミュニケーション力や表現力を高める事ができたに「まあまあそうだと思う」「少しそうでないと思う」に解答した学生が82%と高かった。もっと対話ができれば良かったと思う。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	初めの数回は対面授業で進められたので、計画的に進められたが、遠隔授業になり、後に試験も遠隔でとなり、計画通りにいかなかった事で、学生に迷惑がかかった点が出てしまった。ただ、学生からの要望についてこちら側が対応したにも関わらず、見ている学生が40名のうち数名しかいなかったことはとても残念であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の到達度自己評価をみると、おおむね達成されたように思われる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生理学	2	後期	選択	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	生理学は、細胞の機能から生命体の維持の基本となる主要臓器の働きについて学ぶ学問である。福祉学科、特に養護教諭を目指す学生にとっては必要な科目であることから、内臓機能や神経系の働きについて理解することに重点を置いた。高等学校で学んだ生物基礎の知識をもとに、対象を認識するための感覚器の働き、中枢での情報の統合、運動神経による骨格筋の制御の仕組みなど、基本的な事柄が理解できるように努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価のすべての項目において、「少しそうでないと思う」以下の否定的な意見が1～2割程度あったが、平均値が3.2-4.0、中央値は「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」および「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が3.0であったがそのほかの項目の中央値が4.0であったことをみると、本科目で意図した教育目標はほぼ達成できたとと言える。 評価は課題の提出をもって行ったが、ほとんどの学生が大変まじめに取り組んでおり、真摯な態度がうかがい知れた。 配布資料や教科書をよく調べて課題に取り組んでいたのが大変印象的であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、社会福祉士国家試験の中の「体の構造と機能及び疾病」において必要な生理学分野の科目である。受講生の約6割が資格取得を目指して受講を決めている。カリキュラムマップの中では、「解剖学」、「医学総論」などと連携して、人体の構造と機能と疾病の成り立ちについての正しい知識を身につけるための科目である。 近年の教員採用試験問題は、難易度の高い設問も含まれており、本科目の授業内容では不十分な点もあるかと考える。時間数が限られる中で、採用試験問題のレベルに合致した授業内容となるよう、創意工夫が必要と考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義で使用したスライドや資料は全てPDFとしてclassroomにて学生に配布した。これらの資料はほとんどが教科書から抜粋しており、教科書を読み進めるために必要なエッセンスを書き出している。つまり、自宅での復習や次回の予習に役立てられるよう配慮したつもりである。しかしながら、予習・復習を全く行わなかった学生が半数近くおり、インターネットの利用など学生が行っていなかったことから、周知が足りなかったと考えている。 今年度は学生の能動的な学習意欲を引き出すためにも、「実感・体感する生理学」を目指して、最終回に医学部で行っている脳解剖実習の手順をビデオで紹介した。次年度は、NHKスペシャル「人体」のビデオ鑑賞を通して、生理現象について考える機会を設けてみることも検討している。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	限られた時間内に、人体のすべての臓器について基本的事項を習得することは不可能である。生理学で学ぶ事象については、身近な現象や病態などをできるだけ多く例示したつもりであるが、必ずしも学生にとって理解できる内容ではなかったのかもしれない。しかしながら、今年度は受講態度も課題の取り組み方も大変よく、講義をしやすいかった。 今後の課題としては、より丁寧な説明を行い、教科書全ての項目を網羅しようとするのではなく、学生に興味を持ってもらえるような事例をもっと多く提示する必要があると考えている。次年度は、2年前期で開講される「解剖学」も本科目担当者が担当するため、大まかな一連の流れを示しながら、個々の講義の位置づけを伝えられるよう努力したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	樋口 善之

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域保健学Ⅰ	3	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、本科目が養護教諭コースを希望する学生が受講していることから、地域保健の仕組みや実践活動の具体例など、養護教諭として知っておくべき基本的内容を網羅することに努めた。また、授業の準備性を高めるため、適宜、学校保健との関連性について説明を加えた。学修準備性については、受講態度もよく、おおむね良好であった。しかしながら、課題以外の学習に取り組んだ学生は非常に少ないこと（30分以上の予習が0回の者が8/19、30分以上の復習が0回の者が6/19）から、主体的な学びをいかに実現するかを今後の課題としたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、養護教諭の実践力の育成に関連する科目であり、知識理解に重点を置いた。学習到達度の自己評価として、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.2であり、知識理解は達成できたと考える。また、思考判断・意欲関心についても「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことが出来た」が4.2点、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」が4.2点であった。 一方、技能表現については、講義形式で座学が中心であったことから、完全に達成されたとは言いがたい。学生の自己評価も「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が4.1点で良好であったが、「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」が3.8点と他の項目に比べて低くなっていた。この点について、オンデマンド型の遠隔授業となったことが影響している可能性はあるが、次年度以降の課題として検討したい。 全体を通して、最終的な成績の平均点は81.1点、再試験対象者が0名であった。到達度としては良好であったと考える。授業の予習復習や課題への課題については取り組む姿勢が見られたが、前述の通り、指示された課題以外の学習に取り組むものがいなかったことは非常に残念である。参考図書などを紹介して、自主的な学びを促していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムとして、本科目は養護教諭を希望する学生が受講する選択科目であり、専門教育科目として位置づけられている。学校保健の実践者になる上で必要な関連知識を学ぶ位置づけであることから、講義の内容としては、基礎的な知識の修得と意欲の醸成に重点を置き、成績評価としては学校保健との関連づけた内容理解を問うレポート課題をとして、地域保健に関する基礎的知識と共に、養護教諭を目指すうえでの自己の考えを述べる設問内容としている。カリキュラムの位置づけとしての内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、より学校保健との関連性についての説明を適宜加えていくことが学修意欲を高めることにつながると考える。公衆衛生学的な地域保健に関する高度な内容の解説よりも、学校保健との関連性から地域保健事業の背景や課題などをみることによって、知識だけでなく、積極的な主体的学びにつながると考える。また、講義の中で専門用語や組織などは名称や詳細などは、インターネットなどを活用して自主的に調べることを促したところ、自由記述欄にその旨のコメントがあり、今後も継続していきたいと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合的評価として、良好であったと思われる。オンラインとなったが好意的に受け止められていたことは授業者として大変うれしい。引き続き、地域保健に関する基礎的な理解に重点をおきつつ、学校保健との関連性について触れるようにしていきたい。授業の進め方について、肯定的な評価（説明は理解しやすいものであった・・・4.3点）もあつたところから次年度も継続して授業改善を進めていきたい。特に、基礎的な知識の修得に加え、授業スタイルとして、オンライン授業であっても双方向的なやり取り（今年度も質問やコメントを次回の授業時にフィードバックしていた）を取り入れ、より主体的な学びにつなげていく授業改善は継続していきたいと考える。前段でも触れたが、「地域保健をなぜ養護教諭が知っておくべきなのか」という点について受講生が主体的に考えるようにしていくことが本科目の課題であるとする。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護学	2	後期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。 受講動機としては「資格取得に必要である」82.1%、「必須科目である」32.1%、「関心のある内容である」17.9%であった。このことから、資格取得や必須科目であるが、関心が低い科目であることがわかる。これらのことから、講義を通して基礎的な知識が定着できるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。 ②授業では、養護教諭に必要な看護理論について基礎を学び、その定着を図るために解剖生理学の復習を取り入れながら授業をおこなった。また、学校現場において実践に生かすことができるように、児童生徒に多い疾患についてグループワークを取り入れた。さらに、学校現場における養護教諭に必要な看護の知識をわかりやすく解説することに心がけ、意欲関心が高まるよう授業内容の改善に心がけた。オンラインの授業では、classroomに事前に資料を掲載し、学生が事前学習をして授業に取り組むことができるように心がけた。自由記述では、「自己学習を行った。」、「資料を読み直した。」、「理解しにくい用語などを自分なりに調べた。」などの意見がみられ意欲的に学習に取り組んでいる様子うかがえた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は83.0点（±4.2）であった。理想的レベル（80点以上）は32名であった。 目標別の達成度は知識・理解に関しては、72.1%、思考・判断81.3%、意欲・関心90.0%、態度97.0%であった。知識・理解では、基礎的な問題の正答率は高かったが、基礎的な知識を応用した論述問題の正答率が低かった。このことは、基礎的な知識の定着とそれを応用しての理解が不十分であったと考えられる。授業では基礎的な問題の定着を確認しつつ、復習問題を課題に出すなどの工夫を通して、応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては思考・判断において、自分が学ぼうとしている専門分野において課題を検討する力を得ることができた（平均値4.4中央値4.0）、関心・意欲において、自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.3中央値4.0）であった。また、職業選択の参考になった（平均値4.3、中央値4.0）であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「保健・医療関係科目」であり、養護教諭一種免許状取得を取得するための看護臨床実習、養護実習の履修要件科目である。 受講動機としては、「資格取得に必要である」82.1%、「必須科目である」32.1%、「関心のある内容である」17.9%であった。このことから、資格取得や必須科目であるが、関心が低い科目であることがわかる。 学生の授業評価においては、知識・理解において、知識を確認、修正したり、新たに得ることができた(平均値4.4中央値4.0) また、関心・意欲においては、自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた(平均値4.3中央値4.0)と答えている。また、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て最終の平均値は高かった。さらに基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。また学生の授業に取り組んだこととして、授業内容をもと提出した課題に真摯に取り組んでいた。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業では、講義でしっかりと基礎知識を身につけ、グループワークなどを取り入れ、学校現場で実践できるような力を身につけることができるように授業内容を工夫していきたい。また、オリエンテーションの際に授業について丁寧に説明を行い、自分の目標が達成できるように目標シートを提示するなどの工夫を行いたい。自由記述では、課題以外に取り組んだこととして、「関連書籍を読んだ。」、「予習や復習をした。」、「(採用試験の)過去問題を解いた。」、「子どもの特性や疾患について知識を得ることができました。また、自分だったらどうするかを考えながら授業を受けることができました。」などの意見があった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、学校現場では医学的な知識を持った専門職として臨機応変な対応が求められる。基礎的な知識を定着させ、学んだ知識をさらに活用し、実践力が身につくような授業構造に取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生命倫理	2	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目はカリキュラムの移行期にあり、2年次と4年次の「様々な専門と関連する科目」として位置づけられている。人を支援する専門職をめざす学生にとって、生老病死をめぐって社会で生じている現代的な課題への理解を深め、これらの課題に直面した際の考え方や態度を養っておくことは重要である。ただ本科目は4年次の科目であることもあり、受講動機は、「関心のある内容である」とともに、「単位数を確保する」ための50%であった。そこで学生が比較的身近に感じられるテーマとして、出産にかかわる生殖補助医療や出生前診断、親の介護等にかかわる安楽死、尊厳死などを取り上げ、生命倫理の課題に対して学生ができるだけ関心を持ち、考えられることに重点を置き、授業を展開した。さらにDVDなどの視聴覚教材を通して課題をイメージ化することや、グループ討議を通してそれぞれの価値観の違いをふまえて考えを深めていけるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は83.3点、中央値は83点であったが、点数の開きが大きかった。学生の自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」の平均値4.5、中央値4.5であった。知識理解についての評価は、平均値4.5-4.8、中央値4.5-5.0、思考判断については、平均値4.3、中央値4.0、意欲関心は平均値4.3、中央値4.0、態度は平均値3.5、中央値3.5であり、概ね達成されたと考える。DP3に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の評価により、単位取得が目的であった学生が少しでも意欲関心を持てたという成果があったと考えられるが、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の項目が他の項目に比べやや平均値、中央値が低く、また「少しそうでないと思う」と回答した学生も1名いた。科目の内容としては大きな課題であるため、次年度以降、講義内で提示する様々な課題と倫理とのつながりを学生へ意識づけできるように講義を工夫していく必要がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「様々な専門と関連する科目」として位置づけられている。4. に記載したような成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 4. に記したように成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価については、平均値4.5、中央値5.0であり、全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。このことから授業の進め方については問題がなかったと考える。 学習量の評価を見てみると、予習、復習を全くしなかった学生はいなかったが、自発的学習に取り組んだ学生はごくわずかであった。自発的学習を促せるよう、さらに学生の意欲関心を高める工夫が必要である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「様々な専門と関連する科目」として位置づけられている。3. 4. に記したように、講義で提示する様々な課題を倫理とつなげて学生が考えられるような工夫や、授業を通して意欲関心を高め、自発的学習を促していく工夫が必要である。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会的養護	3	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	2年次の子ども家庭福祉論で導入部分が学習していることを前提に授業を展開した。理論的・概念的な内容であるため、実際の社会的養護下にある子どもたちの実像を想像できることを目的とする視聴覚教材の利用に制限があった。このため、十分にイメージ作りができたとは評価しがたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生によって幅があるが、レポート試験の結果からは概ね理解が進んだと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容としては概ね妥当と考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	遠隔授業では制限があり十分に実際の現場感覚が醸成されたか評価に困難を感じる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	机上の理論・概念の学習だけでは実際の対人援助場面での様々な課題についてイメージが付きがたいと考えられるので、視聴覚教材などを十分に利用して学生の学習深化に寄与したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○学生にとってわかりにくい授業のひとつであり、授業において教育を本質・文化・制度など多面的に理解するためのフックを工夫した。 ○保育に携わる者にとって教育の意味をイメージできるようつとめた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○平均点72.7点。秀2名（15.47%）、優4名（30.8%）、良1名（7.7%）、可6名（46.20%）、不可0名（0.0%）。SD12.8。 参考：昨年度平均点68.9点。秀11.1%、優22.2%、良44.4%、可22.2%、不可0.0%。 ○平均点は4点上昇したが、秀・優が46%、良・可が54%と二極化が見られる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○DP、CP、カリキュラムマップ上では子ども家庭福祉コースに必要なものとして位置づけられており、内容妥当性について問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○授業ごとに取り扱う内容量をコンパクトにしたテキストを用いたが、学習内容に抽象的なものがかなり多く、その解説に時間を取られてしまった。 ○途中からスライドなどを活用し、高校時代の世界史の知識を活用できる内容を展開したが、前提となる知識や興味に差が大きかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○教育現象を幅広く取り上げるため総花的になりやすく、思想や歴史など興味を持つことができないと理解が進みづらい内容である。教材の工夫や教育現場の様子を紹介することなども積極的に行いたい。 ○教育の現代的課題などは福祉の多領域とも重なるため、統計資料などに基づいた把握の方法を丁寧に行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育者論	1	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は保育士資格取得のための必修科目である。保育者の役割と倫理、保育の専門性について理解すると同時に、学生の今後の学びへの意欲、保育者像をいかに描いていくに関わる重要な科目である。保育者の専門性の奥深さや魅力を伝えるとともに、幅広い専門的知識が求められること、ソーシャルワークの専門性と保育の専門性をかけ合わせることがいかに役立つのか、現代の子どもと家庭をとりまく現状で求められるのはなぜかを伝えることに重点をおいた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価によると、「知識・理解」（DP1）においては「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う55%、わりにそうだと思う36%）「事象を理解する視点や考え方をえることができた」（かなりそうだと思う36%、わりにそうだと思う55%）、「思考・判断」（DP2）においては「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」において、（かなりそうだと思う64%、わりにそうだと思う36%）、「関心・意欲」（DP3）においては「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（かなりそうだと思う64%、わりにそうだと思う36%）、「態度」（DP4）においては「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う64%、わりにそうだと思う12%）であった。本科目における教育目標はある程度達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,行動目標からの内容的妥当性 4 (2) に記載したように、学生の学習到達度自己評価と「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容」に示された内容とを照らし合わせると、現時点では、本科目が含むべき教育内容とめざす教育目標に関連するDPが設定されておらず、修正が必要である。 ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は保育士養成科目の導入部分に位置づけられる科目であり、他の保育専門科目に取り組む土台となる科目である。カリキュラムマップにおいては適切な位置づけである。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、平均値4.2～4.6となっており、比較的高い評価を得た。「学習量の評価」においては、授業の準備を2, 3回以上行った学生が55%、復習を2, 3回以上行った学生が64%であった。本科目は子ども家庭福祉コースの学生にとっては、大学での学びへの導入となる科目であると考えられるため、さらに学生が学びへの意欲を高め、自発的学習につながるような授業の展開を工夫していくことが今後の課題である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標はある程度達成できたと考えるが、主体的学習態度の形成においてさらなる取り組み、工夫に努めていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	吉積 秀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの食と栄養	3	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初年度のアンケートの反省をふまえ今年度は保育コースを選んだ理由の項目を新たに加え、学生の学習目的及び意欲の確認ができた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	概ね80点以上とってほしいと試験を作成したつもりだったが、平均値は72点だった。昨年とあまり変化ない結果となった。理想的レベルに達したものは9名中4名で約45%の学生が概ね80点以上であった。、昨年に比べて多くなっていた。昨年度の課題であった、「基礎的な栄養素に関する講義」を特に重点目標の一つにしていたが、遠隔授業の中、標準レベルに達していたと思う。、今年度もレポート、プレゼンテーションを含めた最終的な成績は平均74点あり、再試験対象者は0名であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価をみると、「かなりそう思う」「わりにそう思う」「まあまあそう思う」を含めるとほぼ100%であった。遠隔授業の中コミュニケーションに表現力の自己達成評価が「「少しそうでなかった」と答えた学生が一人おり、遠隔授業になれないままだったので、もっと密な対話ができればよかったと反省する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生(?)も私も遠隔授業に不慣れであり、質問の機会も授業中「いつでも」、と伝えていたがどうしても一方的になりがちであった。説明に對しての反応が見えず、授業としてはやりずらかった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の到達度自己評価をみると、おおむね達成されたように思われる。コロナ禍の中、後期の初めに対面授業として、最低限の調理実習ができた事は良かった

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 総論(2018年度入学生)	3	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 本年度は、遠隔授業形態の中で、演習自体に制約があったが、その中で実施可能なように準備をすすめた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価から全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」からも、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。一方で、制約がある中での演習であったため、例年に比べルト保育現場に行って実施することも叶わず、「やや達成された」が妥当であると考え。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、保育内容におけるまとめとなる科目のため、関連DPについては妥当であるとする。また、保育内容の各論を踏まえ実習後に総合的に保育内容について理解する科目として位置付けていることから、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎年、課題量が負担になるという意見が多いが、本年度は遠隔授業ということもあり、そのようなコメントはなかった。成績評価からは、一定の成果があったと考えられるが、例年に比べるともう少し具体的な内容に踏み込めればという懸念は残る。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	このような状況下においては、概ね教育目標は達成できているとする。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 健康	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，自由記述の意見など	授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であり、実践現場についても十分とは言えないがそれぞれ実習で学んだことをさらなる学びに繋げようという意思も感じられる。そのため、講義形式で知識の伝達等に留まらず、演習の中で専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため授業内での学生の興味・関心や技能・経験を把握することに努め、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を遠隔で行い、机上の知識とならないよう配慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」，「学習到達度の自己評価」，「学習量の評価」，「学修のための情報利用」，「図書館，インターネット利用」，自由記述の意見など	学生の「達成度自己評価」については9割以上が達成できたと考えているが、遠隔授業であった点、成績評価から全員が目標を達成したとは言い難く、「やや達成された」とした。課題に取り組む際に「図書館利用」「インターネット利用」については一部学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、学習準備性についても個人によって意欲・能力に差異があり、教員側が期待する学習量を満たす学生は一部のみの学生に限られた。資格取得のための科目という性質を考えると、受講意欲が低い学生も数名みられたが、学生が主体的に授業に参加したと思える割合を増やすことで意欲を持って授業に臨めるようになった学生も少なくなく、全体としての目標達成度は達成された部分が多い。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、D P の知識理解、技能表現に合致するものであり、C P、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	一部成績下位の学生については、授業開始時に実施する確認テストが全く回答できていなかったり、回答する意思がないこともあり、学習方法が明確でないこと習慣が身についていない学生が一部存在すると考える。これらの学生に対しては、さらに具体的な学習方法の提示や、課題に対するアセスメントを行いながら、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要であると考える一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もある。とりわけ、遠隔授業ということもあり、意欲において差が出やすかったことが考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標にしている本科目で、成績評価と学生が目標達成に向け取り組んだ結果として、概ね目標は達成できたと考える。一方で、演習系科目において遠隔授業で実施であったため、十分な教授が行えたかは疑問が残る。授業内容や授業スケジュールなど、学生にとって見通しを持って学習ができるように情報の提示の仕方を工夫する必要がある。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 ことば	1	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、7割以上の学生の動機がそれに該当科目である。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価結果から全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても全項目4.0点以上であり、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。ただし、遠隔授業形態であったため、直接的な技術指導等は困難であった。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育技術に関する内容の教授であることから、関連D Pについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、C P, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の内容は概ね問題ないと考えているが、実演形式で保育の表現技術について教授する必要がある、遠隔授業による困難さはあった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本年度の状況下においては、成績評価上も概ね教育目標は達成できているとする。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	藤瀬 宗子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
乳児保育	3	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	理論に即しながら、保育職の経験からの事例・実践例を準備し、並行して提供しながら、理解の深まりに努めた。 コロナ禍の状況を鑑み、事例はより多く提供し、現場での雰囲気や状況を知ってもらうよう努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・再試対象は0名 ・就職をし、実践に移った際に、必要なこと、知識として必須なことを試験問題にして選出。併せて、試験後には解答例を提示し、ふり返りにつなげた。 ・遠隔授業が多かった中で、「知識を持つこと」「知識は荷物にはならないこと」「心の栄養になること」「自分を護るものであること」を伝えてきた。 ・実習、演習の機会が少なかったことが残念であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は専門教育科目である。 実践実習の機会が持てなかったこと、演習や体験学習の機会が少なかったことが残念であった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・コロナ禍の中で、遠隔授業も含め、演習、グループ討議を導入することが難しい状況であった。こちらの問いに返答してもらうという機会を取りながら授業 進行であった。 ・実践実習が不可の中であったため、より多くの事例を交えての講義内容に努めた結果、ほぼ平均4.5であった。 ・復習することに重点を置き、ふり返りからの課題を提供した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・講義に際し、資料を「分かり易く」「これからのバイブルになるよう」その想いで作成し提供した。 ・乳児保育は「人の生涯における学びの出発点に関わる」その大人、保育士の役割は重要である、学び合いの中から、大切なことを知識として習得して ほしいとの想いであった。 ・学生との出会いに感謝している。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
障害児保育	3	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期の授業からの連続性で後期は授業を展開した。演習系科目であるが、対面授業の期間は講義として解説した。その後の遠隔授業では、学生が主体的に資料作成・プレゼンテーションを実行した。制限の中、学生は十分に努力していた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	レポートやノート作成の結果から、学生によって、内容理解について幅があり全員が到達できたとは判断できない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	概ね妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	遠隔授業では、学生の主体的な学習において、ネット環境に依存するため制限が多く、図書館等の利用などが不十分であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	遠隔授業の制限の中で、学生によって理解の幅があるが努力していたと考えられる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅰ	3	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うというよりは、必然的に受講している科目である。 学生の受講動機に関わらず、保育実習に行くための準備科目であるため、社会人としての基礎的なマナーから実習に必要な書類作成、実習の心がけ、基本的な保育技術について教授する準備を整えた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価から、全体的な教育目標はやや達成できたと考える。一方で遠隔授業での実施が主であったため、具体的な保育技術の教授等には限界があった。 実習の準備に関わる科目のため、授業内容、進行については大きな変更は困難であるが、説明や方法についてより詳しくする必要があると考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学内の学びを総合的に実践の場で学ぶ機会であるため、上級学年での開講の必要がある。その点を踏まえて、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習に行くために必要な知識・技術を身に着けるための科目であるため、必要な教授内容を系統的に配置し、進行了。講義だけでは、学生の理解に差が出るため、学習進度に合わせて授業時間外に個別に対応し、全体の授業進行を均一に保った。しかし、遠隔授業携帯での実施が重傷あったため、例年のように細やかな指導ができたかというやや疑問が残る。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	遠隔形態の中では、概ね達成できたと考えるが、学生の学力差に対する対応が今後の課題である。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉専門職を目指す学生、特段メンタルヘルス分野（精神保健福祉領域）に興味を持つ学生を対象としたゼミである。可能な限りリアリティを重視し、現場実践学を学ぶ機会の提供を行うことに重点を置いている。ゼミで、司法施設や福祉施設のWebでの見学を積極的に行ったり、社会福祉士会や精神保健福祉士協会のWeb研修会にも積極的に参加した。本ゼミを選択するに当たり、事前に全員と面談を行い、趣旨説明やゼミの学習内容を説明した。Webでの外部活動を行ったら、必ず振り返りを行い、レポートにまとさせた。更には、4年次につながる様に、最終的に卒業研究である「ゼミ論」のテーマの選定が行えるよう、アドバイスをを行った。 なお、今年度に関しては殆どがweb講義での対応となり、学生の反応を直接確認することはできなかったが、感想等にて専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、参加意欲、態度、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全学生が80点以上であり、理想的レベルに達している。レポート等の内容から、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性については、卒業するための必須科目であり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味がある学生が選択しているということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、理想的な到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見での内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度は、学術データベースの利用に関してが殆どなされてない状況であったので、卒業研究にもかかわる重要事項でもあり、利用の仕方からのインフォメーションを行った。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。最終学年になることも考慮して、時間の作り方に関しても、引き続き指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	メンタルヘルスについて興味関心がある学生が多く、全員精神保健福祉士養成レーンの学生であった。これまでの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授した。次年度には専門研究Ⅱが設定されているので、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、実践現場のWebでの見学を行ったので、現状と課題を追求できるように、さらなる内容を吟味していく必要があると感じた。次年度は予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。Web中心ではあったが、対面と同様の効果はあったものと感じられる。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○上級生の専門研究と連動することを計画した。 ○全員が教職課程履修者であり、教育現場での実践力養成の観点から準備された。 ○真面目だがもう少し積極的に行動できるようになればと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○コロナの影響で上級生とつながることが十分にできなかった。 ○全員が教職課程履修者であり、教育現場での実践力養成の観点から準備された。 ○オンライン中心の指導のため、専門研究Ⅰとしては十分には成果を上げることができなかった。その中で学生たちは地道な努力を続けており、専門研究Ⅱにおいて成果が期待される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○DP、CP、カリキュラムマップ上に位置づけられた科目であり、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○ほぼ全員が手探りでゼミを始め、毎回学習成果をまとめて発表することに少しずつ慣れていった。学習への取り組みや態度にあまり大きな差が見られず、全員が専門研究Ⅰに対応していると感じた。 ○知識の整理や習得に学習が偏りがちで、養護教諭の具体的イメージを固めることが不十分なケースも見られた。 ○ゼミでの発言は活発とは言えない部分もあるが、個人としての取り組みを真面目に行っていると感じた。積極性を引き出すことがもう少しできたのではと反省する。 ○オンライン授業の中ではゼミ活動が一番もどかしかったというのが学生の意見で出た。集団で助け合いながら、対面的な学びの場を提供できなかったことを申し訳なく感じる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○次年度もオンラインでの指導が予想されるが、春の実習、夏の教員採用試験など専門研究Ⅱの成果を十分に活用できるよう指導を行いたい。 ○学生自身が考え挑戦することを促す指導となるよう工夫したい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講学生の取得しようとする資格が同一ではないことから、各学生が強みとする専門性や学習準備性の不揃いな点を活用して、ともに学び合い教え合うことを通じて理解を深めていくことを大切にしながら授業をすすめた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生による到達度自己評価を見ると、平均値4.4～4.9であり、中央値は5.0であった。特に「知識・理解」（DP1）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」においては、7名中6名が「かなりそうだと思う」と回答し、残る一人は「わりにそうだと思う」と回答している。図書館利用に関しては、新型コロナウイルスの影響で図書館利用ができない期間が長かったため、インターネットの検索システムなどを活用し、ゼミ活動に必要な学術論文等の入手を各学生が工夫して行った。本科目における教育目標は一定程度達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の「専門研究科目」に位置づけられる科目である。これまでに大学の授業で学んだ知識、理解を土台として、自身の専門領域における関心を深め、学びを深めていく意欲を引き出すこと、学生の主体的自発的に学ぼうとする態度を形成することによって専門教育での学びをさらに深めること、自立した専門職として自身をさらに向上させていく人となることをめざすうえで重要な科目であると考え。これらのことから、本科目はDP,CP,カリキュラムマップにおける位置づけから見て内容的に妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が4.9～5.0であった。4（2）に記述したように、制限された中でも学生一人ひとりが学びを深める姿勢を保ち、取り組み続けることができた。学生同士の学びあう姿勢に支えられ、内容の深い授業を進めることができたと考え。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標は達成できたと考える。学生間で関心のあるテーマに違いがあるものの、深く探究していくうちに概念どうしのつながりを発見できたり、互いに得た情報を共有することが刺激になり、学生同士が相互に学習意欲を引き出しあうことのできる集団として成長したと評価する。4年時の専門研究Ⅱにおいても、引き続き主体的に学ぶ姿勢を育て、知識、課題を検討する力、的確に判断できる力を養うことができるよう、取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機としては、「必須科目である」100.0%、「資格取得に必要な科目である」57.1%の学生が答えている。 専門研究では個人で設定したテーマやグループで設定したテーマをもとに演習形式で行った。オリエンテーションではお互いを知るために、他己紹介等のグループワークを取り入れた。さらに、個人の興味のあるテーマについてディスカッションを行い、各自がテーマを設定しテーマについて、プレゼンテーションを行い、その後そのテーマについてグループワークを行った。オンラインの授業においても、グループワーク等を取り入れ積極的な意見交換を行い、自己の意見を発表したり、まとめたりする場面を保障するように心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は80.0点であった。 授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.4、中央値4.0）、また意欲・関心が高く、学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.3 中央値4.0）、コミュニケーション力や表現力を高めることができた（平均値4.6、中央値5.0）、職業選択の参考になった（平均値4.6 中央値5.0）と答えていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.4、中央値4.0）、また意欲関心においては、コミュニケーション力や表現力を高めることができた（平均値4.6 中央値5.0）と答えていた。 学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の学習量の評価においては、「自分の研究したいテーマについて調べたりした。」「論文を読んだ。」などして積極的に授業に取り組んだという意見があった。 また、図書館での学習などを通して、学生が学習準備をしていた。 本科目を通して養護教諭として専門性を深めていけるよう、グループ討議などを取り入れ授業構造を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目を通して養護教諭としての専門性を深め、学校現場において活躍できるような実践力を身につけることができるように授業工夫していきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	高口 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が75%であり、受講動機が低い。対人援助の仕事を目指す学生を対象としていたため、自分の考えをまとめ他者に伝える技術を高めるため、ディスカッションの機会を多く取り入れ、必要に応じて演習を行った。②様々な専門職の意見を聞く機会を設け興味関心を広げることで、自身の進路についてより具体的にイメージすることを目的として授業を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成自己評価で全体的に3.5となっている。リモートによるゼミ開催の中で、ディスカッション中心の内容となっていたため、可能な範囲で現場体験が出来る機会などを設け、専門分野における興味関心を高め、視点や考え方を広げる工夫を行いたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は「必修科目」であり、受講動機も「必修科目である」が75%を占める。受講動機は低めであるが、様々な分野に関心を持つ学生同士が意見を交換し、視野を広げる様子がうかがえた。これらのことから、行動目標から見ても、CP、DPともに学習内容も妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について全体的に平均値は4以上であった。特にディスカッションの時間を十分に設けたことから「意見をまとめる・話し合う」「質問を受付答える」が4.3であった。今後も学生の関心を引き出しながらテーマを設定し、交互交流から学び合うの場を設けていきたい。学習量の評価では、予習は取り組んでいたが、復習に取り組む機会を設けることが出来なかった様子がうかがえたため、学生がさらに自主的に自学に取り組むことが出来るよう工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	リモート学習の中、調べる方法がネットを利用する方法が主となってしまった。本を読む機会やそこから気づきをまとめるなどの作業を通して、また、状況が可能であれば、関心分野に近い現場体験や専門職との交流の場を設けるなど工夫しながら、興味関心や学びの実感となる機会を設けていきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「入院医療中心から地域生活中心への施策転換」、「地域共生社会の実現」に向けて、「我が事・丸ごと」の地域作り・包括的な支援体制の推進が求められている最中、「地域」では、児童福祉、高齢者福祉、障害児者福祉、医療福祉、教育福祉、司法福祉、精神保健福祉、地域福祉等の専門領域を包括的に捉えるフィールドでもあり、社会的つながりの弱い人たち(当事者や家族等)が安心して地域で暮らす上でも分野横断的な支援ができる地域を基盤としたソーシャルワーカーが今後一層求められている。専門研究Ⅰでは、学生各自が地域で生活する中で捉える最も関心の深い社会的・福祉の問題に着目し、その内容を研究として深化させることを目的に実施している。主には次の点において授業準備に配慮をおいた。なお本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、遠隔システムを軸に授業を展開した。各々の学生の関心のあるテーマに基づいて指導教員の指導の下、専門領域の研究を行い、大学4年間の集大成である成果物の作成について指導にあたった。指導は少人数グループで行い、学生1人ひとりに合わせた個別指導を展開した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、中央値4.0に対して、全体的に中央値の水準であった。（6）「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値が4.2ともっと高く、次に、（2）「知識を確認し、修正したり、新たに得ることができた」（5）「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（7）「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた」が平均値4.1であった。3「授業の質評価」は中央値の水準であった。 本科目は、学生各自が地域で生活する中で捉える最も関心の深い社会的・福祉の問題に着目し、その内容を研究として深化させることを目指している。主に各々の学生の関心のあるテーマに基づいて指導教員の指導の下、専門領域の研究を行い、大学4年間の集大成である成果物の作成について指導にあたった。卒業後の自己イメージの確立、進路選択にあたっての情報収集、目指す専門職に求められる専門的な知識・技術等の獲得のため、現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士の社会的な役割を踏まえ、学生自身の主体的な活動を促した。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤により高度なコミュニケーション技術を理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、学生各自が地域で生活する中で捉える最も関心の深い社会的・福祉的問題に着目し、その内容を研究として深化させることを目的に実施している科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、社会福祉士がどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注察する必要があるが、2020年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、ほぼ平均値の水準であったが、本年度は、コロナウイルスの感染拡大防止の観点により、遠隔授業での実施に取り組んだ。地域社会における福祉的問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をもったが、遠隔対応であるため具体的なイメージをもちづらかったと考えられる。科目の性質上、社会福祉における基礎的な内容をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面において社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士が社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう更に促していきたい。 本科目は福祉的課題を抱える当事者等の事例を取り扱うとともに、法律・制度・サービスといった広範な情報量を取り扱う性質があり、講義内容の要点を整理する必要性から、課題を通して講義の学びをまとめ、整理することに重点を置いた。本科目においても、課題の内容を整理し、次年度の講義に生かしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、相談援助職を目指す学生を対象に、学生各自が地域で生活する中で捉える最も関心の深い社会的・福祉的問題に着目し、その内容を研究として深化させることを目的に実施し、基本的な専門知識・技術の形成は概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、専門研究Ⅱによる各領域の指導を通して、社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士が対応する事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
養護概説	2	後期	選択	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては、「資格取得に必要である」83.9%、「必須科目である」29.0%、「関心のある科目である」22.6%であり、資格取得や必須科目であるが、関心意欲が低いことが分かる。 これらのことから、授業では養護教諭の執務について、学校保健で学んだことを基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワークやロールプレイを取り入れ、関心意欲を高めるように心がけた。 ②本科目は学校保健の教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について学ぶ。学生は自身が児童生徒のときに出会った養護教諭のイメージを持っている学生が多い。そのため、オリエンテーションでは自分自身が児童生徒だった時の養護教諭のイメージと理想の養護教諭像のグループワークを行い、授業に対する関心意欲を高めるように心がけた。講義内容は、養護教諭の職務内容をわかりやすく解説し、学校現場の実践に役立つように、具体的な事例を提示し、養護教諭の職務内容への理解と専門性について解説した。さらに、第14回では学生自身が養護教諭として保健室経営がイメージできるように理想の保健室のレイアウトを考え、グループ発表を通して、養護教諭の執務がより具体的にイメージできるように工夫した。オンラインの授業では、学生が授業の予習ができるように事前にclassroom
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値82.0（±7.4）であった。理想的レベル（80点以上）は25名であった。 目標別の到達度は、知識・理解に関しては80.0%、思考・判断84.5%、関心・意欲82.4%であった。基礎的な問題の正答率は高かったが、基礎的な知識を応用した論述問題の正答率が低かった。このことは、基礎的な知識の定着とそれを応用しての理解が不十分であったと考えられる。授業では基礎的な知識の定着を確認しつつ、グループワークなどを通して応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては知識・理解において、知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.2 中央値4.0）、自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.3 中央値4.0）また、関心意欲においては、自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.1 中央値4.0）であった。 次年度に向けて、基礎的な知識を活用し応用問題に対応できるように復習問題などの課題を取り入れていきたい。さらに、発展的に課題を解決していく力を身につけることができるように授業内容を工夫していきたい。課題以外に取り組んだこととして、「自主学習をしました。」、「復習として学習内容をノートにまとめました。」、「章末問題を解いた。」など意欲的に学習に取り組んでいた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「保健・医療関係科目」であり、養護教諭一種免許状取得するための看護臨床実習、養護実習の履修要件科目である。 受講動機としては「資格取得に必要である」83.9%、「必須科目である」29.0%であった。 また、学生の授業評価においては知識・理解において、知識を確認したり、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.2、中央値4.0）、また、自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.3、中央値4.0）、職業選択の参考になった（平均値4.3 中央値4.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容的妥当性 成績評価から見て知識理解に関する達成度が比較的低かったが、基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。また学生の授業以外に取り組んだこととして、授業内容をもとにレジュメを活用し、予習や復習に取り組んでいた。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価においては、「予習や復習に取り組んだ。」、「教科書を読みこんだ。」「わからないところを調べた。」という意見があり、意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえた。 学生から演習をするための模擬保健室に設置についての要望があったが、設置することができ、演習をする際に活用している。また、学生が自主的に教員採用試験等の演習に活用し、採用試験対策に効果を上げることができた。 さらに授業では、学校現場で臨機応変に対応できるような実践力を身につけることができるように、グループワークなどを取り入れ、コミュニケーション力や表現力を身につけることができるように、授業内容を工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、学校現場では臨機応変に対応することが求められる。基礎的な知識を定着させ、さらに活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。今後もオンラインでの授業の機会が多くなることも予想されるが、classroomの機能を活用しグループワークなどを取り入れ、積極的な意見交換ができるよう学生の要望に応じていきたい。 さらに、授業内容について基礎的な知識の定着を図るとともに、復習課題を提示し、応用力の養成にも取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの保健	1	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であるという結果であった。 そのため、専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を行い、机上の知識とならないよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「達成度自己評価」については9割以上が達成できたと考えているが、遠隔授業であった点、成績評価から全員が目標を達成したとは言い難く、「やや達成された」とした。課題に取り組む際に「図書館利用」「インターネット利用」については一部学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、学習準備性についても個人によって意欲・能力に差異があり、教員側が期待する学習量を満たす学生は一部のみの学生に限られた。資格取得のための科目という性質を考えると、受講意欲が低い学生も数名みられたが、学生が主体的に授業に参加したと思える割合を増やすことで意欲を持って授業に臨めるようになった学生も少なくなく、全体としての目標達成度は達成された部分が多い。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、D Pの知識理解、技能表現に合致するものであり、C P、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、今後の課題として学生と教員間でさらなる評価の共有を行うことで目的の共有が達成され则认为。集団内の学力・意欲・態度に開きがあるため、全体の授業の流れとは別に、個人の学びに応じた支援方法を模索する必要がある。一部成績下位の学生については、授業開始時に実施する小テストが全く回答できていなかったり、回答する意思がないこともあり、「学習量の評価」の復習時間の短さの通り、学習習慣が身につけていない学生が一部存在する则认为。これらの学生に対しては、教科書の内容解説や専門職としての事例提示ではなく、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要である则认为一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もある。さらに、遠隔授業という形態から意欲に差が出やすい状況であったと考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標にしている本科目で、成績評価の結果からは、学生が目標達成に向け取り組んだ結果として、概ね目標は達成できた则认为。一部成績下位の学生や不合格の学生に対する関心・意欲を高める取り組みが課題である。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の心理学	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	オンライン授業中心の講義だからこそ学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうことにした。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	オンライン授業という学生同士の触れ合いが制限される中、これに対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「保育士になるための実践的な知識を得られた」との講義者の狙い通りの趣旨のコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、95パーセント以上の学生が講義に参加していることは学習意欲の高さが示唆される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートに記入された受講動機や授業の質などを概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	オンラインのために自学自習を促す必要性は今回大きかった。このための「次回の授業までに日々の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えるように心がけた。しかしこのことについてはアンケートの結果からまだまだ改善されていないといえるようである。予習の課題設定を今後試行継続してみたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	オンライン授業になって、今までの講義スキルだけでは対応できないと自覚した。講義の経験は多いけれど、今年度の達成状況の総括的評価は3段階A,B,C評価のBではなかろうか。やはり授業はアートだと思った。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後の満足感が違うのである。コロナ禍という非常事態のもと学生の不安感や焦りをいかに軽減するか、今までにない講義の目標が出てきた。今後も努力を重ねたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲城 英里

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
乳児保育Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生の授業ということで、実習が始まっていないことや、これから実習に行くことを考慮して、できるだけ保育現場で現在起こっている事柄を中心に、わかりやすく解説していくことを心がけた。受講動機は「必修科目である」75%が一番高かったが、「資格取得に必要である」50%との差があるため、保育士資格を取得しない学生も一定数いたのではないと思われる。 ②毎回、学生全員に自由な感想を提出してもらった。感想の中で、授業の進め方や内容の提示方法、学生への問いかけに対する反応などを鑑みて、次回以降の授業における進め方に反映させるようにした。また、意見に対する返事も授業のなかでおこない、学生との意思疎通が図れるよう意識した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価を参考にと、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.0と、学生が自分なりの目標を達成できたことを示している。また、「知識を確認、修正したり、新たに得る事ができた」「職業倫理や行動規範について学ぶ事ができた」の項目についても4.0と高い数字であるように思われる。学生が必要としている知識をある程度教示する事ができたのではないと思う。資格取得後に役立つ情報を提示できたかと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機においては「必修科目である」学生が75%であることから、授業自体は選択科目であるが、資格取得の要件として必要な科目出会った事が伺える。そのなかで「資格取得に必要である」学生は50%であるので、なかには資格取得の目的ではなく「関心のある内容である」50%ことから受講した学生もいたのではないと思われる。そのような中で「学習到達度の自己評価」の結果、ほぼ全ての平均値が3.8~4.0であった。学生自身が身につけようとしていることが授業で反映できたと思われる。 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方において、遠隔授業になってからは学生からの反応は感想文の提出がほとんどであり、リアルタイムで意見を反映させることが難しかった。学生との双方向的な授業にしていけたらより充実した授業になったのではないと思う。 また、遠隔授業では学生の表情や反応がわからないため、授業を進めていくにあたり理解度や興味関心の深さなどを伺うことができず、教員のペースになっていった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	保育士資格取得のためには必要な科目であることから、学生が興味を持てる内容であることに加え、知識や技術をより具体的に提示することを心がけた。課題としては実際に学生自身が一つ一つの内容に対して検討する時間や体験する機会などを提示することができればより知識を深められたのではないと思われる。 学生が到達度自己評価で3.8~4.0の値で評価していることから、授業内容としては必要な事柄を教示できたのではないと思う。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容の理解と方法Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期の「保育内容の理解と方法Ⅰ」に続いて遠隔授業を実施した。この科目は保育士取得に必須であり、受講動機によると、「資格取得に必要なである」の100%の他、「関心のある内容である」の項目が44.4%と約半分の学生の関心事項であった。遠隔での指導であったため、自主練習の方法を具体的に伝え、学生が自分で目標をたてて練習に取り組めるよう指導することに重点をおいた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された					やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本授業は保育の現場で歌う曲を選び、ピアノ伴奏で弾き歌いを行う。ピアノ演奏技術には個人差があり、前期に初めてピアノを触り、ようやく慣れたばかりの学生もいた。遠隔であったため細やかな指導ができなかったと感じる。学生のアンケート結果によると「到達度自己評価」の「自分なりの目標を達成した」平均値は4.3点であり、学生自身の評価は高いが、シラバスの到達目標に達しない学生が数名いた。そのため達成されたとは言えない。しかし、「授業の質」評価においては中央値が5.0と高い。また「学習量の評価」における予復習時間が多く、授業への準備を十分にに行ったことを表しており、初心者であるために進度は遅いが、ピアノへの苦手意識により学習意欲が消失することなく自分の課題に向き合うことができたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は1年次開講科目であり、保育専門科目の受講に対する動機づけにつながるという点で重要な科目である。教育目標においては各自のピアノ奏法の技術レベルによる目標設定を行い、個人レッスンで確実にレベルアップできる内容である。同時に子どもの歌の弾き歌いの技術も習得できる内容である。本年度は遠隔にて実施したために、達成状況にばらつきがあったが、学生のピアノ演奏に対する意識は高く、アンケートの結果により積極的な学習も確認された。以上のことから内容的には妥当であると判断できる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今期は遠隔による指導であったため、指示内容はゆっくりと具体的に行った。過大な指導により学生に心理的な負担がかからないよう配慮を行った。アンケート報告書「授業の評価」の「説明はあきらかであった」は平均値4.7点であり、中央値ともに高かったため、授業の進め方についてはとくに問題はなかったと考えられる。自由記述の教員への意見には、ピアノを弾けることが楽しかったこと等、素直な感想が書かれており、今後の糧にしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度自己評価の結果と日々の学生の取り組みから、教育目標は一定程度達成できたと考えられる。本科目は1年時のみの開講であり、次年度以降は個人の努力でピアノ演奏レベルの向上が求められる。今後、授業がなくても現場で求められる技術のさらなる習得にむけて自主的に研鑽を積めるよう、卒業時までの計画を立てることで、意識の継続および向上につながると考えるため、来年度の課題をしたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容の理解と方法Ⅳ	2	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全ての学生の動機がそれに該当する科目である。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。保育技術に関する教授内容であるが、遠隔授業形態の中では非常に困難であった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて全ての学生が「到達度事項評価」にて全項目達成できたと感じており、学生が学修効果を実感している様子が確認された。成績評価上も良好で、学生の実感と近い結果であった。一方で、技術系の演習において、遠隔授業形態での実施は授業構成も非常に困難であり、かつ技術獲得においても直接指導が叶わないため、困難であったと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育技術に関する内容の教授であることから、関連D Pについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、C P, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答を示してください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の内容は概ね問題ないと考えている。実演形式で保育の技術について教授すべきところを遠隔での実施であったため、学生の学習効果的には例年よりも不足があるかもしれないという懸念はある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題を示してください。	成績評価上は、概ね教育目標は達成できていると考えるが、演習における遠隔授業の限界は感じるところであった。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職をとる学生が初めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした ②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していた。 ③おそらく初めて哲学的・教育学的思考に挑むので、わかりやすい説明を心懸け、レジュメにも前年の反省点を踏まえて改訂を加えた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	記述式の試験であるし、内容も毎年異なるので、点数での比較は難しい。到達度及び授業の評価を見ると「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」にかなりの数字が入っているが、一方で「全くそうでない」「少しそうでない」というのが若干いる。おおむね授業は楽しんでもらったが、一部に全く理解できなかった学生がいることも確かである。しかし、それは少数なのでおおむね、学んだ実感は与えたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義の内容に対する疑義について自由記述で書かれた内容についてはその言葉を重視して全学生に授業評価に対する回答を作成して渡している。今年はA 4で5頁ほどになった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全体的に良好であった。来年も維持できるようていねいな説明と対話に心懸けたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○学科平均点82.0点（全体平均点78.1点）。秀14名（29.8%）、優15名（31.9%）、良12名（25.5%）、可5名（10.6%）、不可1名（2.1%）。SD11.3。 参考：学科平均点65.5点。秀9.7%、優16.7%、良16.1%、可22.6%、不可32.3%。 ○平均点で17点、可と不可の割合も大幅に減少し、昨年度と比較して学科全体の成績は大きく向上したといえる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○昨年度と比べて満足できる結果であった。 ○成績対象外ではあるが中間試験を導入したことで本試験の成績が向上したと考えられる。ただし選択肢を細かい条件で判断しなければならないような設問や学習内容を踏まえた応用的な設問に対応できない学生も少なくなかった。知識をどのように応用することができるのかという例題の提示が不足していたかもしれない。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○本年度は満足できる結果となった。次年度は全員合格できるように底上げしたい。 ○次年度は教員養成のカリキュラム改革によってシラバス内容の一部が変更される。より多様な内容を取り上げることになるため、知識が細分化されないように横のつながりを意識した授業を行いたい。

リフレクションカード 2020年度後期

学科	福祉学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。 ②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。 ③殊に新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義を試みた。 ④オンラインの試験で前年は知識のみを問う選択式にしたが、「教育課程論」としての〈知〉には至らなかったと思い、今年は創造的契機を喚起する形式にしてみた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度及び授業評価において「全くそうでない」「少しそうでない」という回答がかなり多かったので、理解されていなかったのではないかと危惧する。一方、「かなりそうだと思う」に想像以上の数が入っていたので、二極分解していると思う。試験もオンラインを意識して、創造的な方法を試みたので他年度との比較はできない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	よくわからなかったとか、講義の内容に対する疑義について自由記述で書かれた内容についてはその言葉を重視して全学生に授業評価に対する回答を作成して渡している。今回はA4で9頁になった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	もう少し内容の理解をはかるように工夫したい。そのためにていねいな説明と対話に心懸けたい。試験方法については再考したい。